

四 輸送貨物緩急車數
五 牽引餘力

但シ餘力ヲ生シタル原因ヲ天候不良輕減、列車遲延輕減、機關車不良輕減、車輛不良連結見合又ハ解放、制動機不足輕減、事故、連結制限、貨車不足ニ區別シテ報告スヘシ

第九條 各運輸事務所ハ第五條乃至第八條ノ報告ニ依リ貨車集配ノ爲管理局ノ定メタル貨車集配表ニ記入計上シ直ニ運輸局及所管々管理局運輸課ニ左ノ各號ノ事項ヲ電報スヘシ

但シ九州管理局ニ在リテハ運輸課ニ於テ取纏メ運輸局ニ電報シ同管理局及北海道管理局管内各運輸事務所ハ運輸局ニ電報スルコトヲ要セス

- 一 使用車ノ行先(管内及管外行ニ分チ尙管外行)、種類、車數
- 二 前號ノ内無賃扱院用品車數
- 三 剩餘又ハ不足車及不用車ノ種類、車數
- 四 發送整備車ノ行先(管内及管外行ニ分チ尙管外行)、種類、盈空別、車數及會社所屬ナルトキハ其ノ所屬名
- 五 停泊車ノ種類、車數及會社所屬ナルトキハ其ノ所屬名

七 所要車ノ行先(管内及管外行ニ分チ尙管外行)、種類、車數

八 發送整備車ヲ各列車組立驛間(次ノ組立驛ヲ除ク例之大阪京都間ニ於テ上リ)、種類、車數
計上シタル車數(次ノ組立驛ヲ除ク例之大阪京都間ニ於テ上リ)、種類、車數

九 停泊車ヲ各列車組立驛間(上リ列車ヨリ見タル次ノ組立驛ヲ除ク例之)、種類、車數

- 一〇 覆布使用數
- 一一 覆布所要數
- 一二 覆布現在數

空、盈、廻送ニ區別スヘシ

一三 貨物發送噸數及貨車收入

一四 當日ノ天候

一五 修繕車數

工場、機關庫及驛内修繕ニ區別シ其種類ヲ有蓋車、無蓋車、有蓋緩急車、無蓋緩急車ニ大別スヘシ

一六 在貨噸數

一七 第八條ニ依ル列車組立驛間ノ牽引定數及輸送客車、貨車、貨物緩急車並牽引餘力數

第十條 各管理局運輸課ハ輸送狀況ヲ毎日書面ヲ以テ運輸局ニ報告スヘシ

第十一條 濱松、木曾福島、直江津、下關及静岡驛ハ運輸局ノ指定セル様式ニ依リ前日午後六時ヨリ

當日午後六時迄ニ通過セル貨車數ヲ毎日運輸局及所管管理局運輸課ニ電報スヘシ

第十二條 本規程ニ使用スル貨車ノ種類及畧符號並用語ノ畧符號左ノ如シ

貨車

屋根付(屋根付貨車ノ總稱)

屋根無(屋根無貨車ノ總稱)

有蓋貨車

有蓋貨車手用制動機付

家具車

魚運車

ボギー鐵製有蓋貨車(二十五噸)

鐵製有蓋貨車

鐵張有蓋貨車

馬運車

冷藏車

油槽車

瓦斯槽車

非常車

石灰車

石灰車手用制動機付

水槽車

無蓋貨車

無蓋貨車手用制動機付

同

緩急車

鐵製無蓋貨車

ボギー無蓋貨車(二十五噸)

同 (二十八噸)

同 (十八噸、十五噸)

貨車及附屬品集配規程

カ ヤ ヤ ャ ム
カ ヤ ヤ ャ ム 貨車噸數ヲ表ハス必要アリ
ワ …… ルトキハ二三四五六七八九
フ …… コジノ畧符號ヲ用フヘシ

ム
レ ソ
ア ス
カ ス
ヒ
カ イ
フ カ イ
ミ
ト (貨車ノ噸數ヲ表ハス必要アル)
フ トキハ有蓋車ノ例ニ依ル
ト フ
テ ト
オ ト
オ トチ
ホ ト

同 (材木車兼用)

ボギー鐵製石炭車(二十四噸)

鐵製石炭車

同 手用制動機付

鐵製石炭車底開キ

同 手用制動機付

鐵製石炭緩急車底開キ

石炭車底開キ

同 手用制動機付

無蓋貨車(材木車兼用)

材木車

ボギー材木車(二十二噸、二十噸)

同 (十噸)

ボギー無蓋貨車(無側)

無蓋貨車ノ棧板ヲ取外シ使用ノモノ

無蓋貨車ノ棧板及側板ヲ取外シ使用ノモノ

鐵桁運搬車(十五噸)

石運車(十七噸)

コークス車

土運車

同 手用制動機付

同 (材木車兼用)

土運緩急車

重量品運搬車(三十噸)

車運車

有蓋緩急車

ボギー有蓋緩急車

有蓋緩急車(齒車付)

ボギー雪搔車

覆布

シ	ユ	ビ	ホ	ワ	シ	オ	ツ	ツ	フ	ツ	コ	セ	ケ	ソ	ト	ホ	オ	チ	ト	フ	タ	テ	フ	テ	オ	ホ
ト	キ	フ	フ	フ	ヤ	ウ	フ	チ	ツ	ク	キ	タ	ヌ	ヌ	チ	チ	チ	チ	ダ	ダ	ダ	フ	セ	セ	セ	チ

網
 専用車
 所要車
 到着車
 使用車
 不用車
 現在車
 停泊車
 發送整備車
 修繕車
 盈
 空
 廻送
 上リ
 下リ
 合計
 剩餘車
 不足車
 管内
 管外
 牽引定數
 輸送客車數
 輸送貨車數
 輸送貨物緩急車數
 天候不良輕減
 列車遲延輕減
 機關車不良輕減
 車輛不良連結見合又ハ解放
 制動機不足輕減
 事故

貨車及附屬品集配規程

ツ
 セ
 セ
 チ
 シ
 フ
 ゲ
 テ
 ハ
 シ
 ツ
 ク
 カ
 ゼ
 シ
 ヲ
 ヲ
 ナ
 フ
 ナ
 ガ
 ケ
 カ
 ク
 モ
 イ
 ロ
 ハ
 ニ
 ホ
 ヘ

連結制限

貨車不足

チ ト

(各管理局專屬貨車ニハ所屬管理局畧符號ヲ冠スヘシ)

第十三條 管理局運輸課又ハ運輸事務所ニ於テ專屬貨車以外ニ自管内又ハ他管内ニ跨リ發着驛又ハ區間ヲ限リ若ハ貨物ノ品種ニ依リ專用車ヲ設ケントスルトキハ運輸局ノ承認ヲ經ヘシ

但シ院用品專用車ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 管理局運輸課又ハ運輸事務所ニ於テ本規程ニ對スル細則其ノ他貨車集配ニ關シ取扱方ヲ定メ若ハ之ヲ改廢シタルトキハ其ノ都度運輸局ニ報告スヘシ

第十五條 覆布及綱ノ集配ニ關スル規定ハ本規程ニ定ムルモノノ外別ニ之ヲ定ム

第十六條 運輸局員及管理局運輸課員ハ必要ニ應シ既往ノ輸送成績及將來ノ集配計畫ニ付運輸局又ハ必要ノ場所ニ於テ協議會ヲ開催スヘシ

第十七條 管理局ハ線路ノ狀態又ハ地域ノ關係ニ因リ運輸局ノ承認ヲ經テ本規程ニ定ムル報告事項ヲ省畧シ又ハ之ヲ細別スルコトヲ得

附則

明治四十二年四月達第三〇四號ハ之ヲ廢止ス

本規程ハ大正二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

管理局專屬貨車取扱規程

二年七月
達五七九號

改三年
正 達第五〇二、一〇〇二、一〇〇三、一〇六四、一一一九號

管理局專屬貨車取扱規程左ノ通定ム

第一條 東京管理局ニ專屬スル貨車左ノ如シ

- 一 鐵製有蓋貨車 二二一輛
- 一 有蓋緩急車 七輛
- 一 同 (片側自働連結器附) 八輛
- 一 瓦斯槽車 六輛
- 一 油槽車 四四輛
- 一 冷蔵車 一五輛
- 一 家具車 三輛
- 一 馬運車 五輛
- 一 非常車 二輛

管理局專屬貨車取扱規程

- 一 有蓋緩急車(齒車附) 一五輛
- 一 ボギ一雪搔車 四輛
- 一 重量品運搬車 二輛
- 一 ボギ一無蓋貨車(二十五噸) 二輛
- 一 同 材木車兼用(二十八噸) 二輛
- 一 ボギ一材木車(二十二噸) 二輛
- 一 同 (二十噸) 一〇輛
- 一 同 (十噸) 二輛
- 一 無蓋貨車(手用制動機附共) 三六六五輛
- 一 無蓋緩急車 一五八輛
- 一 コークス車 二九輛
- 一 石運車 一輛
- 一 土運緩急車 九輛
- 一 鐵製石炭車(手用制動機附共) 一〇〇輛

第二條 神戸管理局ニ專屬スル貨車左ノ如シ

- 一 ボギ一鐵製有蓋貨車 五輛
- 一 鐵製有蓋貨車 三八一輛
- 一 瓦斯槽車 一六輛
- 一 家畜車 二三〇輛
- 一 冷藏車 一一五輛
- 一 家具車 一輛
- 一 馬運車 五輛
- 一 非常車 三輛
- 一 重量品運搬車 二輛
- 一 ボギ一無蓋貨車(二十五噸) 三輛
- 一 同 材木車兼用(二十八噸) 二輛
- 一 ボギ一材木車(十噸) 二輛
- 一 鐵製無蓋貨車 二五二輛
- 一 無蓋貨車(材木車兼用) 一五輛
- 一 無蓋緩急車 四〇輛

- 一 鐵桁運搬車 六輛
- 一 ボギー鐵製石炭車 一輛
- 一 鐵製石炭車 五〇輛
- 一 德島線貨車 九六輛
- 一 讚岐線貨車 五二輛

第三條 九州管理局ニ專屬スル貨車左ノ如シ

- 一 鐵製有蓋貨車 六〇輛
- 一 家畜車 二〇輛
- 一 冷藏車 三〇輛
- 一 水槽車 一二輛
- 一 非常車 八輛
- 一 石灰車(手用制動機附共) 一六輛
- 一 重量品運搬車 一輛
- 一 ボギー無蓋貨車(材木車兼用) 二〇輛
- 一 ボギー材木車(十噸) 一〇輛
- 一 無蓋貨車(手用制動機附共) 一一八七輛
- 一 材木車 六二輛
- 一 土運車(手用制動機附共) 二〇五輛
- 一 鐵製石炭車底開キ(手用制動機附共) 四七三九輛
- 一 鐵製石炭緩急車底開キ 一〇〇輛
- 一 石炭車底開キ(手用制動機附共) 五七六輛

第四條 東京管理局專屬貨車ハ左ノ如ク配置運用スヘシ

- 一 鐵製有蓋貨車 佐野(兩毛線)、栃木、郡山、福島、仙臺、野内、秋田、兩國橋、沼津驛ニ常備スヘシ
- 一 有蓋緩急車 五輛ヲ汐留ニ、二輛ヲ横濱ニ、無蓋貨車三輛ヲ横濱驛ニ常備シ旅客列車便ニ依ル貨物ノ運送ニ使用スヘシ
- 一 有蓋緩急車(片側自動連結器附)青森驛ニ常備シ本州線ヲ運轉スル自動連結機付車輛ノ運送ニ使用スヘシ
- 一 瓦斯槽車 日暮里驛ニ常備スヘシ
- 一 油槽車 柏崎、輕井澤、福島、雄物川驛ニ常備スヘシ
- 一 冷藏車 青森、沼津驛ニ常備スヘシ

- 一 家具車 汐留、横濱驛ニ常備スヘシ
 - 一 馬運車 汐留、上野驛ニ常備スヘシ
 - 一 非常車 横濱、沼津驛ニ常備スヘシ
 - 一 有蓋緩急車(齒車附) 横川、輕井澤ニ常備シ碓氷線ニ専用スルモノトス
 - 一 ボギー雪搔車 青森、新庄、直江津、長野機關庫ニ常備スヘシ
 - 一 重量品運搬車 横濱驛ニ常備スヘシ
 - 一 同 材木車兼用(二十八噸)隅田川驛ニ常備スヘシ
 - 一 ボギー無蓋貨車(二十五噸) 横濱驛ニ常備スヘシ
 - 一 ボギー材木車(二十二、二十、十噸)隅田川、横濱驛ニ常備スヘシ
 - 一 無蓋貨車(手用制動機附共)、無蓋緩急車 常磐地方石炭ノ運送ニ使用シ到着驛ハ荷卸ヲ了シタル後直ニ之ヲ緩驛宛廻送スヘシ但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 緩驛方面順路行貨物ノ運送ニ使用スルトキ
 - 二 水戸、上野、兩國運輸事務所管内及新橋運輸事務所管内山手線各驛相互間貨物ノ運送ニ使用スルトキ
 - 三 茅野鹽尻間及松本ニ到着シタルモノヲ上松又ハ熱田ニ廻送シ隅田川行木材ノ運送ニ使用スルトキ
 - 四 新橋、甲府、長野、福島、仙臺、青森、秋田運輸事務所管内ヨリ上野、水戸運輸事務所管内行貨物ノ運送ニ使用スルトキ
 - 五 上野、水戸、福島、仙臺、青森、秋田運輸事務所管内ヨリ山手線行貨物ノ運送ニ使用スルトキ
 - 一 コークス車 隅田川驛ニ常備スヘシ
 - 一 石運車 横濱驛ニ常備スヘシ
 - 一 土運緩急車 立川、長野、直江津驛ニ常備スヘシ
 - 一 鐵製石炭車(手用制動機附共) 常磐線發隅田川着石炭ノ運送ニ使用スヘシ
- 第五條 神戸管理局專屬貨車ハ左ノ如ク配置運用スヘシ
- 一 ボギー鐵製有蓋貨車 大垣、垂井驛ニ常備スヘシ
 - 一 鐵製有蓋貨車 大垣、垂井、長岡、醒ヶ井、米原、安治川口、糸崎、厚狹、四日市、境驛ニ常備スヘシ
 - 一 瓦斯槽車 姫路、湊町驛ニ常備スヘシ
 - 一 家畜車 神戸、尾道、笠岡、下關其ノ他ヨリ發送スル家畜ノ運送ニ之ヲ使用シ其ノ他ノ運送ニハ一切之ヲ使用セス汐留三ノ宮間及其ノ支線並北陸、關西線ニ到着シタルモノハ神戸ニ、兵庫松永間ニ到着シタルモノハ尾道ニ、糸崎以西ニ到着シタルモノハ下關ニ向ケ速ニ廻送スヘシ

但大阪、岡山、下關運輸事務所ニ於テハ家畜ノ出荷又ハ他管内ヨリ要求ナクシテ游泊スル場合ニ限り自管内限り發着ノ普通貨物ノ運送ニ之ヲ使用スルコトヲ得

- 一 冷蔵車 下關驛ニ常備スヘシ
- 一 家具車 神戸驛ニ常備スヘシ
- 一 馬運車 名古屋驛ニ常備スヘシ
- 一 非常車 名古屋、米原、福井驛ニ常備スヘシ
- 一 重量品運搬車、ボギー無蓋貨車(二十五噸)、同材木車兼用(二十八噸)ボギー材木車(十噸) 神戸驛ニ常備スヘシ

- 一 鐵製無蓋貨車 櫻島、尼ヶ崎、神戸、兵庫、糸崎、下關、四日市、境驛ニ常備シ主トシテ院用石炭ノ運送ニ使用スヘシ

- 一 無蓋貨車(材木車兼用) 川端驛ニ常備スヘシ

- 一 無蓋緩急車 安治川口驛其ノ他ニ常備スヘシ

- 一 鐵桁運搬車 兵庫驛ニ常備スヘシ

- 一 ボギー鐵製石炭車 安治川口驛ニ常備スヘシ

- 一 鐵製石炭車 大嶺發徳山行海軍石炭ノ運送ニ使用スルノ外下關發院用石炭(成ルヘク最寄驛行)

ノ運送ニ使用シ到著驛ハ速ニ下關ニ向ケ之ヲ使用又ハ廻送スヘシ

第六條 九州管理局專屬貨車ハ左ノ如ク配置運用スヘシ

- 一 鐵製有蓋貨車 熊本驛ニ常備スヘシ

- 一 家畜車 鳥栖、有田、熊本、吉松、大分驛ニ常備スヘシ

- 一 冷蔵車 吉塚、長崎驛ニ常備スヘシ

- 一 水槽車 若松、鳥栖、熊本、人吉、鹿兒島、早岐、大分驛ニ常備スヘシ

- 一 非常車 小倉、吉塚、鳥栖、熊本、吉松、早岐、浦上、直方驛ニ常備スヘシ

- 一 石灰車(手用制動機附共) 熊本驛ニ常備スヘシ

- 一 重量品運搬車 門司驛ニ常備スヘシ

- 一 ボギー無蓋貨車(材木車兼用)、ボギー材木車(十噸)、材木車 門司驛其ノ他ニ常備スヘシ

- 一 土運車(手用制動機附共) 門司驛其ノ他ニ常備シ院用品ノ運送ニ専用スヘシ

- 一 無蓋貨車(手用制動機附共)、鐵製石炭車底開キ(手用制動機附共)、鐵製石炭緩急車底開キ、石炭車底開キ(手用制動機共) 豊州、筑豊及唐津線發送石炭ノ運送ニ専用スヘシ

但石炭車底開キ(手用制動機附共)ハ本州線内荷卸設備伴ハサルヲ以テ同線ニ使用スヘカラス

第七條 第四條乃至第六條ノ常備貨車ハ其ノ到著驛ヨリ急速常備驛ニ返送スヘシ

東京管理局專屬無蓋貨車(手用制動機附共)、無蓋緩急車及鐵製石炭車(手用制動機附共)並神戸管理局專屬家畜車、鐵製無蓋貨車及鐵製石炭車ハ運輸局ニ協議シ管理局運輸課ニ於テ本條所定ノ使用區域外ニ亘リ運用スルコトヲ得

第八條 冷藏車、家具車、馬運車、重量品運搬車、ボギー無蓋貨車(二十五噸及材木車兼用共)、ボギー材木車(二十二、二十、十噸)、鐵桁運搬車及石運車ニ付テハ常備驛ニ於テ適當ノ帳簿ヲ備付ケ其ノ發著月日、驛名、ヲ記入シ運用ヲ明瞭ニスヘシ從テ常備驛以外ノ驛ニ於テ之ヲ使用シタルトキハ其月日、車號及着驛ヲ常備驛ニ通知スヘシ

第九條 前條ニ掲ケタル貨車ニ付テハ發送ト同時ニ發驛ヨリ左ノ雛形ノ貨車送狀ヲ着驛ニ送付シ着驛ニ於テ現車到着シタルトキ直ニ到着月日、列車番號及次ニ發送スヘキ豫定着驛名ヲ送狀ニ記入シ運輸局ニ送付スヘシ

貨車送狀
白 驛 至 驛

大正	年	月	日	列車發送	大正	年	月	日	列車到着
貨車記號番號	盈又ハ空	次ニ發送スヘキ豫定着驛名	キ	記	事				

第十條 北海道管理局ニ於ケル專屬貨車ノ配置及其ノ運用方ハ管理局長之ヲ定ムヘシ
第十一條 專屬貨車ノ記號、番號ハ別ニ達示ス

附則

明治四十二年四月達第三〇五號東、中、西部、九州管理局所屬貨車取扱手續ハ之ヲ廢止ス
本規程ハ大正二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

橫濱鐵道所屬貨車共通使用ノ件

明治四十三年三月三十一日 達 第 二 三 七 號

來四月一日以降橫濱鐵道所屬貨車ハ別ニ所屬ヲ設ケス一般共通使用スヘシ其種類輛數左ノ通トス
有蓋貨車 自ヤ一號至ヤ五十六號 五十六輛
無蓋貨車 自ト三一號至ト四十號 十輛
貨物緩急車 自カブ一號至カブ八號 八輛
土運車 自ト一號至ト三十號(内自一號至六號緩急機付) 三十輛

荷主指定ノ經由線路變更ノ場合取扱ノ件

明治四十二年十二月二十一日 達第一〇九〇號

列車系統又ハ運搬力ノ都合ニヨリ荷主指定ノ經由線路ヲ變更シテ貨物ヲ輸送スル場合ハ自管理局管荷主指定ノ經由線路變更ノ場合取扱ノ件

内ニアリテハ管理局營業課ニ於テ施行シ他管内ニ渉ルトキハ關係管理局所ニ於テ協議ノ上實施前速ニ其要旨ヲ運輸部營業課ニ報告スヘシ

貨車覆布取扱手續

明治四十二年十一月(改正達畧)
達第九四二號

東、中、西部、九州管理局

貨車用覆布取扱手續左記ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ實施ス

道テ從來ノ達ニシテ本達ニ牴觸スルモノハ本達實施ノ日ヨリ廢止ス

貨車用覆布取扱手續

第一條 覆布ハ本院營業課ニ於テ臺帳ヲ備ヘ之ヲ管理ス

第二條 覆布ハ無蓋貨車ニ積載シタル貨物ノ品質ニヨリ雨濕火災等ヲ防禦スルニ必要ナル時ニ限り使用シ決シテ其他ノ目的ニ使用スヘカラス

第三條 覆布ハ貨車一輛ニ對シテ一枚ヲ使用スヘキモノトス

但貨車大形若クハ貨物嵩高等ノタメ一枚ニテ雨濕火災等ヲ防禦スルニ不充分ナル場合ニ限り二枚ヲ使用スヘシ

第四條 貨車ニ覆布ヲ使用セントスルトキハ豫メ之ヲ覆フニ便ナル様折疊ミ其頂上ニ揚ケ前後左右

ニ順次覆ヒ降スヘシ此場合決シテ覆布ノ上ニ乗ルヘカラサルハ勿論貨車ノ「ピン」又ハ尖角或ハ積載貨物ノ尖角等ニ接觸シ覆布ヲ傷フノ虞アルトキハ該部ニ菰又ハ蓆等ノ如キ柔軟ナルモノヲ使用シテ破損ノ憂ナキ豫防スヘシ又覆布ノ縁紐ハ特ニ設アル綱懸金具ニ結ヒ付ケ決シテ他ノ鐵具或ハ彈鐵等ニ結ヒ付クヘカラス

第五條 覆布ヲ除去セントスルトキハ必ス該車側ニ登リ手前ヨリ漸次頂上ニ疊ミ上ケ取卸ヲナスヘシ決シテ一方ヨリ引卸スヘカラス

第六條 覆布ヲ取扱フニ手鈎ヲ使用シ或ハ地上ヲ引摺ル等粗暴ノ取扱ヲナスヘカラス

第七條 覆布ノ到着シタル驛(又ハ荷扱所以下略之)ニ於テ直ニ使用又ハ廻送セサルモノハ必ス之ヲ干場ニ掛ケ(干場ナキ驛ハ適當ノ場所ニテ)充分乾燥セシムルコトニ注意シ乾燥後ハ之ヲ折疊ミ一定ノ置場ニ保管スヘシ決シテ線路上プラツトホーム其他ニ放擲シ或ハ車内ニ留置クヘカラス

第八條 覆布ヲ乾スニハ必ス先ツ汚穢ヲ洗滌スヘク之ヲ置場ニ置クニハ縦ニ三ツ又ハ四ツニ折り兩端ヨリ卷キ中央ヲ其縁紐又ハ繩ニテ結束シ記號番號ヲ記入シタル繪符ヲ付シテ配列シ置クヘシ

第九條 覆布ハ破損又ハ塗料脫却其他地質腐朽等ノ爲メ使用ニ適セサルモノ若クハ記號番號不明ノモノヲ發見シタルトキハ現品ヲ所管管理局營業課ニ廻送シ管理局ハ調査ノ上修繕ヲ要スルモノハ直ニ其取計ヲ爲シ同時ニ其記號番號ヲ又破損ノモノニ對シテハ其事由ヲモ併セテ本部營業課ニ報

告スヘシ又到底使用ニ堪エスト認ムルモノハ其事由ヲ具シ現品ヲ本院營業課ニ送付スヘシ
但管理局ハ修繕濟ノ上其記號番號ヲ本院營業課ニ報告スヘシ

第十條 覆布ヲ發送スルトキハ貨車ニ使用スル場合ト否トヲ問ハス必ス發驛、著驛、發送月日、列車
號、覆布ノ所屬、記號、番號、枚數及車號(車號ハ記事欄内ニ記入スヘシ)ヲ記入シタル送狀(已第七
號)ヲ發行スヘシ而シテ貨車ニ使用シタル覆布ノ送狀ハ該貨物ノ運送通知書ト共ニ送付スヘシ

但二車以上ノ積車ニ覆布ヲ使用發送(廻送ノトキ亦同シ)ノトキ其著驛同一ノ場合ト雖モ覆布送
狀ハ一車毎ニ各別ニ發行スヘシ

第十一條 貨車ニ使用セスシテ廻送スル覆布ハ之ヲ折疊ミ記號番號及發著驛名ヲ記入シタル繪符ヲ
付シ發著中繼驛ニ於ケル受授ヲ明確ニスヘシ

第十二條 廻送ノ覆布ハ可成前部緩急車(關門間廻送セラルルモノヲ除ク)ニ限り積載シ普通有蓋車
ニ他貨物ト混載スヘカラス

但一時ニ多數ノ廻送ヲ爲ストキハ便宜一貨車ヲ使用スルコトヲ得此場合ニハ車票面ニ其枚數ヲ
(覆布何枚入)明記スヘシ

第十三條 各驛ニテハ左記様式ノ帳簿ヲ備ヘ自驛ニ著發スル覆布ノ成績ヲ明カニスヘシ

貨車用覆布著發簿

覆布所屬 記號番號	到		著		送		記 事	
	發驛	月日	列車號	車號	著驛	月日		列車號

記入方

- 一 到著覆布ハ送狀ニヨリ現品ト正確ニ之ヲ對照シタル上記入スヘシ
- 一 覆布ヲ發送シタルトキハ該品到著ノ際ニ於ケル記帳ヲ調ヘ其右方發送欄ニ所定ノ通記入スヘシ
- 一 毎日夜半十二時ヲ期シ當日中ニ著發セシ枚數竝差引現在ノ枚數ヲ到著欄當日分ノ末尾ニ明記シ置クヘシ

第十四條 覆布ノ紛著又ハ發著驛不明ノモノヲ發見シタルトキハ直ニ其記號、番號、其他必要ノ事由
ヲ本院營業課ニ報告シ現品ハ集配驛(第十五條參照)ニ送付スヘシ

第十五條 左記各驛ヲ覆布集配驛ト定ム
東部管理局管内

貨車覆布取扱手續

秋葉原、上野出張所、高崎、大宮、小山、宇都宮、日光、黒磯、白河、郡山、福島、仙臺、一ノ關、盛岡、一戸、尻内、青森、隅田川、友部、水戸、平、原ノ町、若松、米澤、山形、新庄、横手、秋田、土崎、機織、大館、弘前、兩國橋、本所、佐倉、大綱、木更津

中部管理局管内

汐留、横濱、静岡、濱松、名古屋、米原、金澤、敦賀、新宿、八王子、猿橋、甲府、長野、直江津、長岡、大府、中津川、福井、富山、松本

西部管理局管内

大阪(荷扱所)、神戸、兵庫、岡山、廣島、三田尻、下關、龜山、柘植、奈良、湊町、五條、片町、大津、京都、池田、福知山、四日市、宇野、小野濱、姫路、笠岡、和田山、徳島、多度津、生野、鳥取、上井、米子、松江、出雲今市

九州管理局管内

門司(荷扱所)、鳥栖、熊本、鹿兒嶋、早岐、直方、行橋、博多、大牟田、人吉、久保田、長崎

第十六條 各驛ニテハ到着ノ覆布ニシテ二十四時間以内ニ使用ノ必要ナキモノ又ハ所管運輸事務所ヨリ他ヘ廻送ノ指示ナキモノハ自驛ニ留置セス直ニ最寄ノ集配驛(所管ヲ問ハス)ニ送付スヘシ

第十七條 各驛ニテ覆布ノ配給ヲ要スルトキハ最寄集配驛(所管ヲ問ハス)ニ請求シ集配驛ニテハ各

驛ノ請求ニ應シ速ニ配給ノ取扱ヲ爲スヘシ若シ不足ノ場合ハ所管運輸事務所ニ請求シ又殘餘ノモノハ安全ニ保管シ置キ(第七條第八條參照)管理局營業課又ハ所管運輸事務所ノ指示ニ從テ處理スヘシ

第十八條 各驛(集配驛ヲ含ム)ノ覆布請求數並現在數等報告方ニ關シテハ貨車及附屬品集配手續ノ定ムル處ニ據ルヘシ

第十九條 集配驛ニテハ責任者ヲ定メ常ニ集配上ノ成績ヲ明カニスヘシ

但責任者ノ氏名ハ本院營業課及所管管理局營業課及所管運輸事務所ニ報告スヘシ

第二十條 集配驛ニテハ毎月末日現在ノ覆布ヲ取調ヘ記號番號ヲ本院營業課ニ報告スヘシ

第二十一條 管理局ニテハ管内覆布不足ヲ告ケ他所管ヨリ廻送ヲ要スルトキハ本院營業課ニ請求スヘシ

第二十二條 著驛ニ於テ受領シタル覆布送狀ハ毎日取纏メ本院營業課ニ送付スヘシ

第二十三條 院有覆布ヲ會社線ニ向ケ使用セントスルトキハ所管管理局營業課ノ承認ヲ受クヘシ

第二十四條 院有覆布ヲ會社線ニ向ケ使用シタルトキハ發送驛ニ於テ左ノ通り處理スヘシ

一 覆布送狀ノ寫ヲ調製シ本院營業課ニ送付スヘシ

一 著驛、發送月日、列車號、覆布ノ記號、番號及車號ヲ書面ヲ以テ其經過スヘキ最終ノ院有所屬連

絡驛ニ通知スヘシ

第二十五條 連絡驛ニテハ左記様式ノ帳簿ヲ備ヘ現車ニ就キ覆布ノ記號、番號ヲ取調ヘ前項發驛ノ通知ト對照シテ記帳シ以テ歸著ノ際ニ查收ノ用ニ供スヘシ若シ相當時日内ニ歸著セサルキハ著驛ニ督促シ尙ホ歸著遅延若クハ所在不明ト認メタル場合ハ所管運輸事務所ヲ經テ管理局營業課ニ報告スヘシ管理局ハ關係ノ向ニ照會シ現品ノ所在不明ナルトキハ其顛末ヲ本院營業課ニ報告スヘシ

貨車用覆布出入帳

覆布記號	發驛	著驛	發送		車號	社線入込		歸著		記事
			月日	列車		月日	列車	月日	列車	

記入方ハ第十三條ニ準ス

第二十六條 會社線ニテ院有覆布ノ到着シタルモノハ返路ノ使用ヲ爲サスシテ其經過シ來リタル最近院所屬連絡驛(第二十五條參照)ニ返送スヘキモノトス

第二十七條 社有覆布ノ到着シタルモノハ返路ニ使用セス送狀ヲ附シテ左記指定驛ニ返送スヘシ

但其指定ナキモノニアリテハ院有所屬連絡驛ニ送付シ同驛長ニ於テ正確ニ之カ受授ノ手續ヲ爲スヘシ

川越、上武、南海

發送驛

河南

富田林驛

尾西

新一ノ宮驛

中國

同所岡山荷物取扱所

成田

成田

博多灣

香椎

島原

諫早

豐川鐵道ト連帶ヲ要スルモノハ豐橋驛ニ於テ院社相互掛換ヲ爲スモノトス該掛換ハ同鐵道會社ニ於テ取扱フモノトス

第二十八條 關門間出入覆布ノ枚數ヲ明瞭ナラシメンカ爲メ西部管理局ニ於テハ別ニ定ムル様式ニ據リ毎日下關驛長ヲシテ嚴密ニ調査シタル出入數ヲ本院營業課、自局、九州管理局ニ電報セシムヘシ

第二十九條 荷主ノ希望ニヨリ荷主所有ノ覆布ヲ使用セントスル時ハ覆布ノ形狀地質等運輸上安全

貨車覆布取扱手續

ナルコトヲ確認シ且荷主ニ於テ其使用中ニ起ル覆布ノ損害ヲ負担スル場合ニ限り其使用ヲ承認スルコトヲ得
前項ノ覆布ヲ到着後二十四時間以内ニ返送方申出タル時ハ完全ニ荷造ヲ施サシメ無貨運送ノ取扱ヲナスヘシ

貨車用綱取扱手續

明治四十二年四月
達第三〇八號

改四十五年三月
正達第一〇六四〇八號 達第一一九號

貨車用綱取扱手續左記ノ通相定メ四月二十五日ヨリ實施ス

追テ從來ノ達ニシテ本達ニ牴觸ノモノハ自然消滅トス

貨車用綱取扱手續

第一條 綱ハ常備驛(又ハ荷扱所以下略之)ヲ定メ當該驛長(又ハ主任以下略之)ヲシテ之カ保管ノ責ニ任セシム

第二條 左記各驛ヲ常備驛ト定ム

但常備員數及番號ハ別表ノ通りトス

東部管理局管内

秋葉原、大宮、古河、小山、石橋、宇都宮、岡本、寶積寺、氏家、片岡、矢板、野崎、西那須野、東那須野、
黒磯、黒田原、豊原、白河、泉崎、矢吹、須賀川、郡山、本宮、二本松、松川、福島、白石、大河原、槻木、
岩沼、長町、仙臺、鹽釜、小牛田、石越、花泉、一ノ關、平泉、水澤、金ヶ崎、黒澤尻、花巻、日詰、盛岡、
好摩、川口、沼宮内、中山、小鳥谷、一ノ戸、福岡、金田一、三ノ戸、劍吉、尻内、八ノ戸、湊、下田、古間
木、沼崎、乙供、野邊地、狩場澤、小湊、淺虫、青森、上尾、桶川、鴻巣、熊谷、本庄、新町、高崎、磯部、松
井田、横川、輕井澤、隅田川、佐貫、牛久、荒川沖、土浦、石岡、岩間、友部、水戸、高萩、磯原、勿來、平、
四ツ倉、久ノ濱、富岡、大野、浪江、原ノ町、中村、笠間、岩瀬、鹿沼、文狭、今市、栃木、熱海、中山宿、
山湯、關都、川桁、猪苗代、翁島、大寺、若松、喜多方、山都、米澤、糠ノ目、赤湯、上ノ山、山形、天童、
神町、楯岡、大石田、船形、新庄、新町、釜淵、及位、院内、横堀、湯澤、十文字、横手、飯詰、大曲、神宮
寺、秋田、土崎、雄物川、五城目、鹿渡、森岳、機織、能代、二ツ井、鷹巢、早口、大館、白澤、陣場、碓ヶ
關、大鰐、弘前、川部、浪岡、大釋迦、兩國橋、本所、佐倉、日向、土氣、大網、大原、八街、東金、銚子
中部管理局管内

汐留、神奈川、東神奈川、海神奈川、横濱、横須賀、平塚、國府津、山北、駿河、御殿場、佐野、沼津、鈴
川、富士、岩淵、江尻、静岡、藤枝、島田、金谷、堀ノ内、掛川、袋井、中泉、天龍川、濱松、豊橋、熱田、名
古屋、岐阜、大垣、米原、木ノ本、中ノ郷、鯖波、鯖江、金ヶ崎、矢田新、今庄、武生、福井、金澤、富山、

貨車用綱取扱手續

大井、中津川、飯田町、新宿、池袋、立川、八王子、上野原、烏澤、猿橋、大月、初狩、甲府、日野春、小淵澤、上諏訪、辰野、松本、篠ノ井、御代田、小諸、長野、直江津、柏崎、長岡、沼垂、橋本、洗馬、贛川、藪原、宮ノ越、木曾福島、上松、須原、野尻、三留野、坂下、千種、明科、沓掛

西部管理局管内

大津、梅小路、二條、大阪(荷扱所)、安治川口、神戸、兵庫、姫路、上郡、岡山、玉島、福山、尾道、河内、廣島、三田尻、下關、和田山、尼ヶ崎、舞鶴(海岸荷扱所)、多度津、吉浦、徳島、船戸、龜山、柘植、奈良、湊町、五條、片町、櫻島、篠山、小野濱

九州管理局管内

門司(荷扱所)、小倉、八幡、折尾、遠賀川、博多、行橋、宇ノ島、中津、柳ヶ浦、大分、後藤寺、若松、直方、飯塚、芳雄、鳥栖、久留米、羽犬塚、矢部川、大牟田、神埼、佐賀、久保田、唐津、武雄、有田、早岐、大村、長崎、佐世保、植木、上熊本、熊本、球磨川(荷扱所)人吉、吉松、栗野、牧園、鹿兒島

第三條 網ノ修繕ヲ要スルモノハ其常備驛長ニ於テ事由ヲ具シ現品ヲ所管管理局營業課ニ廻送シ當該營業課ハ現品ヲ調査シテ其必要ヲ認メタルモノハ直ニ修繕ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 網ハ無蓋貨車ニ積載シタル貨物ニ對シ必要ナル場合ニ限り使用シ決シテ其他ノ目的ニ使用スヘカラス

第五條 網ヲ使用スル際ハ叮嚀ニ取扱フヘキハ勿論其使用セサル場合ハ適當ニ捲整シ決シテ散亂セシメサル様一定ノ場所ニ貯藏スヘシ

第六條 常備驛以外ノ各驛ニ於テ網ノ必要アル時ハ最寄常備驛ニ請求シ常備驛ハ直ニ配給ヲナシ若シ不足スル場合ハ所管運輸事務所ニ報告シ運輸事務所ハ速ニ所管内他ノ常備驛ニ配給ヲ命スヘシ

第七條 配給ヲ受ケタル驛長ハ用済ノ後直ニ其常備驛ニ返送ノ責ヲ負フモノトス

第八條 網ヲ使用シタル貨車到着シタル驛ニ於テハ速ニ之ヲ發驛ニ返送シ決シテ他驛ニ使用スヘカラス

第九條 網ヲ會社線ニ向ケ使用スル時ハ網送狀餘白ニ左記ノ通り記入スヘシ

本網用済ノ上速ニ當驛宛返送方御手配相成度

第十條 網ノ配給又ハ返送ヲナス際ハ勿論積車ニ使用スル場合ト雖モ必ス網送狀(已第七號)ヲ發行スヘシ

但積車ニ使用スル場合ハ送狀記事欄ニ貨車番號ヲ記入シ該貨物ノ運送通知書ト共ニ送付スヘシ

第十一條 常備驛ニテハ左記様式ノ帳簿ヲ備ヘ其出入ヲ明確ニシ若シ相當時日ヲ經過スルモ返送ヲ受ケサル時ハ督促ノ手續ヲ爲シ尙歸著遅延ノ場合ハ所管運輸事務所ニ報告スヘシ

第十二條 所屬不明ノ網ヲ發見シタル場合ハ速ニ所管運輸事務所ニ報告スヘシ

第十三條 運輸事務所ニ於テ前二條ノ報告ヲ受ケタル場合ハ速ニ精査シ其顛末ヲ所管管理局營業課ニ報告スヘシ

貨車用綱出納簿

綱 記號番號	使 用 日	行 先	車 號	列 車 號	歸 月	著 日	記 事
	月				日		

第十四條 綱ノ新調、常備驛ノ改廢、常備數ノ増減及處分等ハ所管管理局營業課ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第十五條 常備驛長ハ每月末日ニ於ケル現在數ヲ左記様式ニヨリ所管運輸事務所ヲ經テ所管管理局營業課ニ報告スヘシ

貨車用綱現在報告書

綱 常備數	内		修 繕 中	自 驛 使 用 回 數	當 月 使 用 回 數	配 給 回 數	合 計	記 事
	現 在 數	使 用 中						

第十六條 管理局營業課長ハ每月末日現在常備數及常備驛ヲ左記様式ニ依リ運輸部營業課長ニ報告スヘシ

年 月 綱現在報告

管理局

驛 名	前 月 報 告 數	増	減	新 調	現 在 數	記 事

新調欄ニハ其月新ニ常備驛ヲ設タルモノヲ記載スルモノトス

第十七條 會社線所屬ノ綱到着シタルトキハ其返送方ニ付發驛指定ナキ場合ハ速ニ院所屬連絡驛ニ送付シ同驛長ニ於テ正確ニ之ヲ受授ノ手續ヲ爲スヘシ

但此場合ニ於テハ送狀記事欄ニ「何何線何驛ニ返送」ノ文字ヲ記入スヘシ

第十八條 荷主ノ希望ニ依リ荷主所有ノ綱ヲ使用セントスル時ハ綱ノ品質カ運輸上安全ナルコトヲ確認シ且荷主ニ於テ其使用中ニ起ル綱ノ損害ヲ負担スル場合ニ限り其使用ヲ承認スルコトヲ得前項ノ綱ヲ到着後二十四時間以内ニ返送方申出タル時ハ完全ニ荷造ヲ施サシメ無貨運送ノ取扱ヲ

貨車用綱取扱手續

ナスヘシ

(備考)

貨車用綱ヲ配給又ハ返送スル場合ニ於テ其結東方完全ナラサルタメ取扱上不便尠カラサルハ勿論延ヒテ紛失ノ虞アルニ付左記ノ通結東ノ上取扱フヘシ

長サ三尺位ニ結束ノ上二箇所ヲ緊縛シ兩端ニ發著驛名ヲ記入シタル荷札ヲ附スルコト
(四十五年二月三日公報注意)

荷主所有覆布及綱無賃返送方ノ件

二年十月廿三日
公報注意

荷主所有ノ覆布及綱ヲ無賃返送ノ場合ニ於ケル取扱方ハ返送人ヨリ運送狀ヲ提出セシメ貨物通知書ヲ發行シ有賃扱貨物同様受授ノ手續ヲ爲シ院用覆布及綱ト混同セサル様注意ヲ要ス但運送狀及貨物通知書記事欄ニ「無賃」ト記入スヘシ

貨車用覆布修繕手續

明治四十五年二月
達第六九號

東、中、西、九州管理局

貨車用覆布取扱手續第九條ノ修繕手續左ノ通定ム

明治四十二年十一月達第九四三號貨車用覆布記號及番號記入方ノ件ハ之ヲ廢止ス

貨車用覆布修繕手續

第一條 各驛所ニ於テ覆布ノ破損又ハ塗料脫却記號番號ノ不鮮明其ノ他地質ノ腐朽セルモノ等ヲ發見シタルトキハ其ノ記號番號及事由ヲ詳記シタル覆布送狀ヲ添付シテ所管管理局營業課ニ現品ヲ送付シ同時ニ本院營業課ニ報告スヘシ

第二條 管理局營業課ニ於テハ第一條ノ覆布送狀ニ記載セル箇所以外其ノ全體ニ對シ修繕スヘキ點ナキヤヲ詳細點檢ノ上速ニ修繕ノ手續ヲ爲スヘシ

修繕ノ手續ヲ爲シタルトキ又ハ修繕完了シタルモノハ其都度該覆布ノ記號番號ヲ本院營業課ニ報告スヘシ

第三條 管理局營業課ニ於テハ修繕ノ見込ナキ覆布ハ其記號番號ヲ詳記シタル覆布送狀ヲ添付シ現品ヲ本院營業課ニ送付スシ

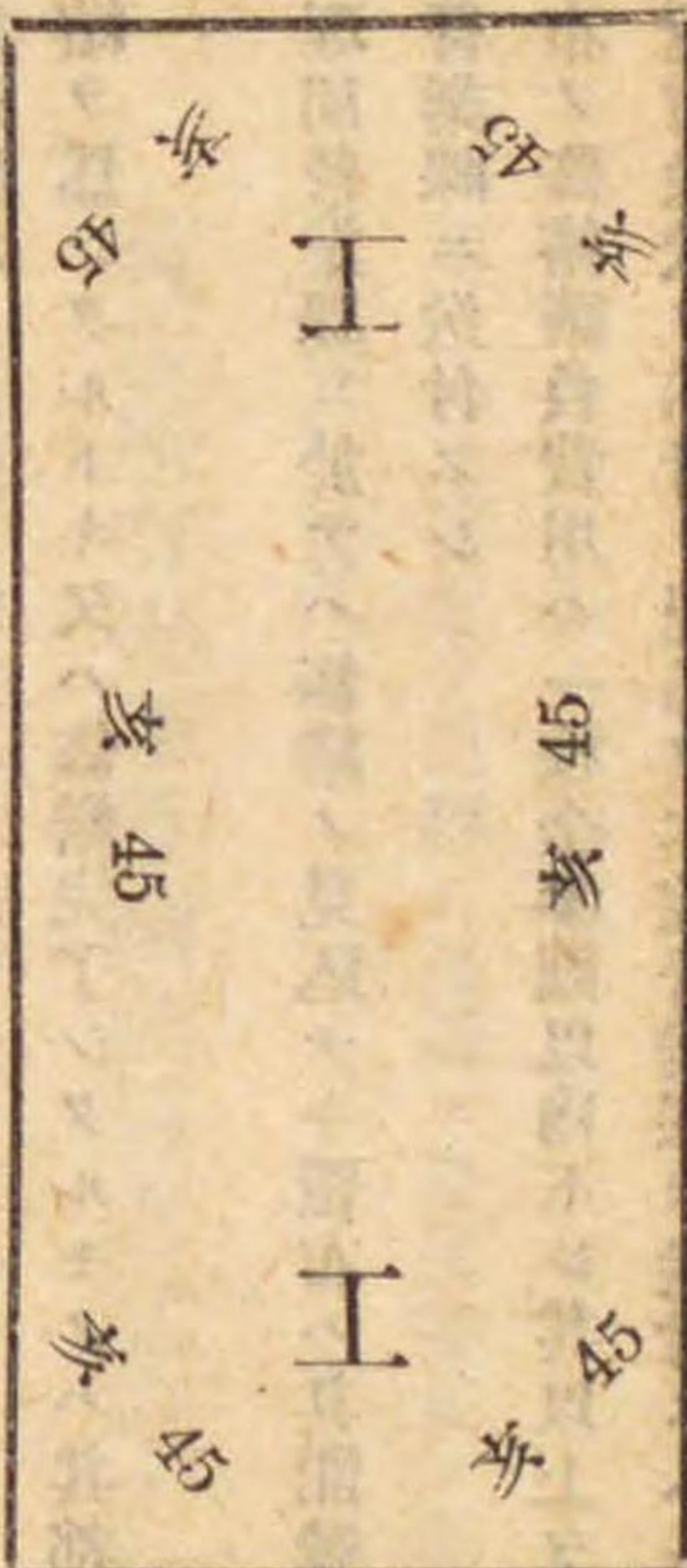
第四條 覆布ノ修繕請負費用ハ一枚金參圓以內トシ其以上ヲ要スルモノハ其ノ記號番號及事由ヲ詳記シタル覆布送狀ヲ添付シ現品ヲ本院營業課ニ送付スヘシ

第五條 管理局營業課ニ於テ修繕ヲ直營セントシ又ハ所管運輸事務所ヲシテ之ヲ爲サシメントスルキハ其ノ場所及費用見積書ヲ作り豫メ本院營業課ノ承認ヲ經ヘシ

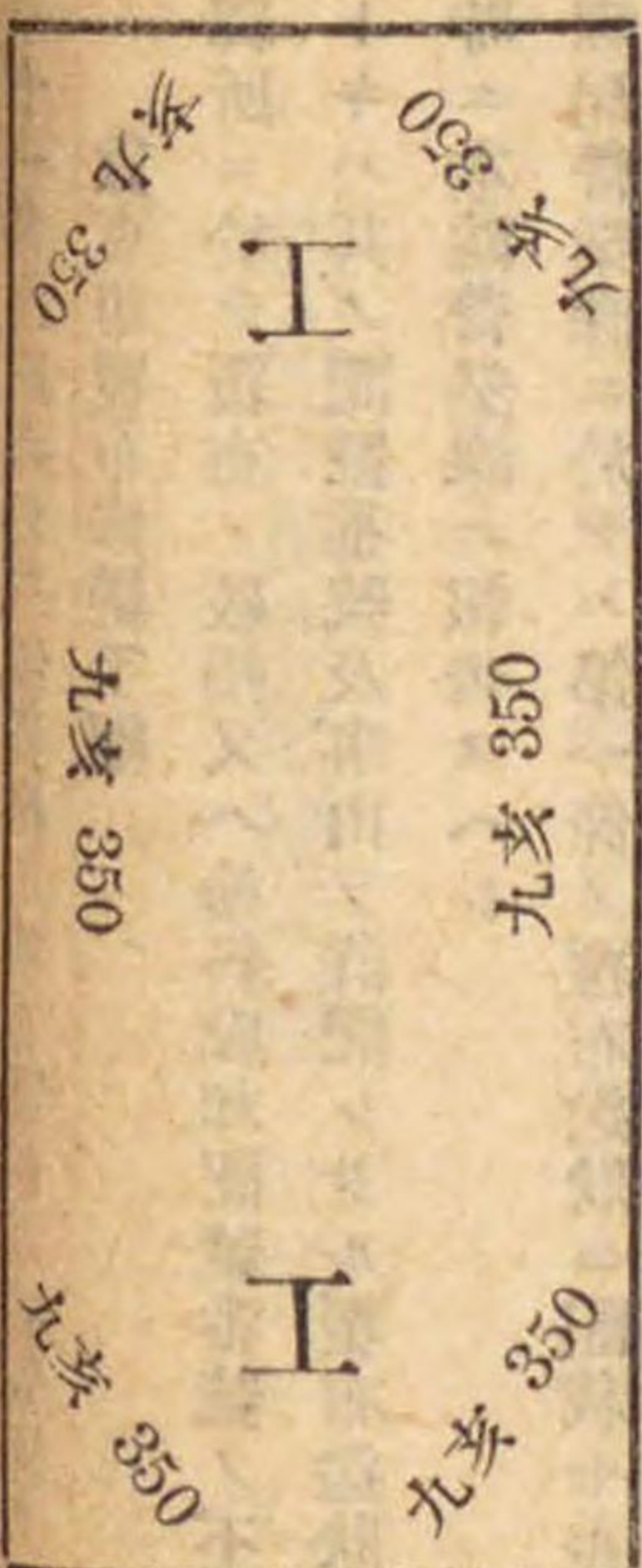
貨車用覆布修繕手續

第六條 覆布修繕ノ場合ハ原形及記號番號ノ字體ヲ變更セサルハ勿論其ノ記號番號ノ記入方ハ左ノ
樣式ニ據ルヘシ

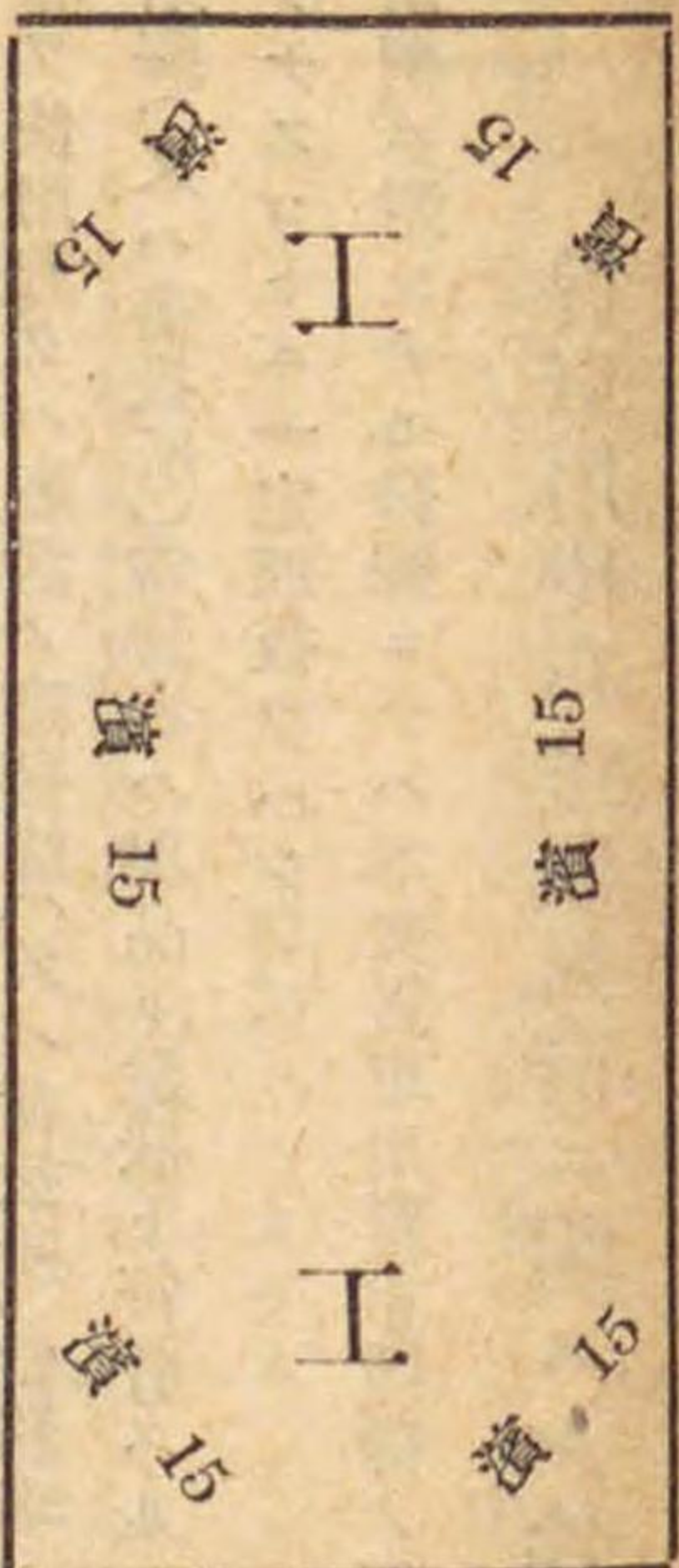
一 元本州線所屬



一 元九州線所屬



一 元横濱線所屬



第七條 管理局營業課ニ於テハ覆布緣紐ノ取替ハ覆布集配驛ニ於テ便宜之ヲ爲サシメ各集配驛ハ每
月六日迄ニ前月分ノ取替員數ヲ本院營業課及管理局營業課ニ報告スヘシ

貨車用覆布記號ニ關スル件

明治四十四年十月六日
公報注意

九月二十一日達第六八七號ニ依リ十月一日ヨリ貨車用覆布ハ本州及九州線ニ共通使用セララルコト
トナリタルニ付テハ從來ノ本州線九州線所屬覆布ノ記號ハ左記ノ通ニシテ同一記號ヲ有スルモノア
リ若シ覆布送狀面ニ舊所屬線名ノ記入ヲ洩ストキハ運用調査上混亂ヲ生スルノ虞アルニ付發驛ニ於
テハ送狀發行ノ際送狀面所有主欄ニ舊所屬線名ノ記入ヲ洩スヘカラス又著驛ニ於テハ到着ノ際送狀

貨車用覆布記號ニ關スル件

ト現品ト對照シ之カ訂補ヲ怠ラサル様注意ヲ要ス
本州線所屬記號

局、吳、己、奧南、秋運、奧北、中央東、未、申、特、戌、亥、別、橫濱、寅、卯、辰、午、山陽、阪鶴、七尾、關西、
參宮、廳

舊九州線所屬記號

△未、申、酉、戌、亥

貨車用覆布送狀ニ當務者印章押捺方ノ件

明治四十一年一月
鐵運乙第二八號

貨車用覆布ヲ使用若クハ廻送ノ際發驛(又ハ荷扱所)當務者ハ該送狀面發驛名ノ傍ニ自己ノ印章ヲ押捺シ又到着驛(又ハ荷扱所)當務者ハ現品ト送狀ト符合スルコトヲ確メタル上送狀面著驛名ノ傍ニ同様押捺印ヲナスコトニ一定取扱フヘシ

但貨車用綱ニ對シテモ發驛ニテハ本文貨車用覆布同様ノ取扱ヲナスヘキ事

貨車用覆布送狀封筒ニ關スル件

明治四十一年一月
鐵運乙第一二七號

一 貨車用覆布送狀用封筒

但覆布到着驛ヨリ其送狀ヲ本部貨物課ニ送付スルトキ用フヘキモノ

右封筒設定ニツキ覆布到着驛(又ハ荷扱所)ニ於テ現品ト送狀ト對照シ記號、番號等相異ナキヲ確メ自驛覆布著發簿ニ記入シタル上送狀面ニ現品到着月日及列車號ヲ記入シ每一日分ヲ取纏メ右封筒ニ入レ遲滞ナク發送スヘシ

追テ該封筒ハ決シテ本文以外ノ用途ニ使用スヘカラス

貨車車票取扱方

明治四十二年十一月
達第九四〇號

改四十二年 四十二年 四十四年 四十五年 大正四年
正 達第四五四號 達第八二九號 達第八三五號 達第三二號 達第九三號
貨車車票取扱方其他左記ノ通り改定シ來ル十二月一日ヨリ實施ス

従前ノ諸達ニシテ本達ト重複又ハ牴觸スルモノハ本達實施ノ日ヨリ廢止ス

第一條 取扱方

- 一、貨車車票ハ貨車ニ對スル通知書トス故ニ貨車ヲ發送セントスルトキハ必ス車票ヲ貨車ノ兩側ニ挿入スルヲ要ス途中驛ニ於テハ漫リニ之ヲ撤去シ又ハ該車ヲ他ニ使用スルヲ得サルモノトス
- 二、貨車車票ニ記入スヘキ事項ハ遺漏ナク楷書體ヲ以テ墨書スヘシ
- 三、貨車車票ハ當該貨車ニ貨物ヲ積込、鎖錠、封筒及覆布、綱ノ掛方等ヲ了シ發送ノ準備全ク成リタ

- ル上貨物通知書ト照合シテ挿入スヘキモノトス
 但右車票ニハ當務者(有蓋車ニ在リテハ封印者)ニ於テ發驛名ノ側ヘ印章ヲ押捺スヘシ
 四、貨車車票ハ到着貨車ノ鎖錠、封印及覆布、綱ノ掛方等完全ナルヲ認メ貨物通知書ト對照シ貨物取卸シヲ終リタルト同時ニ之ヲ撤去スヘキモノトス若シ貨物通知書未著ナルカ或ハ直ニ貨物取卸ニ著手スルコトヲ得サル貨車ノ車票ハ撤去スヘカラス
 五、貨車車票ノ挿入撤去ハ貨物係員之ヲ爲スモノトス
 但車號掛ノ設ケアル所ニテハ空貨車發送ノ場合ニ於ケル車票ノ挿入ハ車號掛之ヲ爲スヘシ
 六、貨車ニハ特別ノ達示アルモノノ外ハ車票以外ニ木札又ハ紙札等ヲ附スヘカラス

第二條 車票樣式

驛經由	線	貨記番 車號號	名品	出	月 日
		五分			

分五寸五

(色紙)用物貨種特

驛經由	線	貨記番 車號號	名品	出	月 日
		五分			

種 種

驛經由	線	貨記番 車號號	名品	出	月 日
		五分			

五分 五分

分五寸一

貨記番 車號		月	
○此點線内ハ 一線ノ終點		日	
行		出	

赤ノ條一ハ内線點此
車用空
色赤ノ條一ハ内線點此

貨記番 車號		月	
行		日	
行		出	

分五寸一
品險危

貨記番 車號		月	
名品		日	
行		出	

此點線内ハ一線ノ終點

營業安部中
線
驛經由

固定文字ハ通常車票ト何レモ同一ナリ

第三條 使用方

一、普通貨物用(白色)

普通貨物積載車ニ用ユ

二、特種貨物用(桃色)

左記貨物ノ一品又ハ數品ヲ積載シタル貨車(通常扱ノ場合ニ限り左記貨物ヲ他ノ普通貨物ト積合タル貨車)共ニ用ユ

生糸、生繭、蠶卵紙、絹布、茶、鮮又ハ生タル及蒸又ハ焼タル魚、介蟲類、鰹節(生乾燥ノモノ)鮮肉、米、卵、生果、野菜、甘藷、生花、桑葉、樹木、植木類、苗木、牛、馬、豚、家禽等ノ動物、引越家具、演劇道具、院有貨車、覆布及綱其他運輸部營業課ニテ指定シタル貨物

本車票挿入ノ貨車ハ普通貨物積載車ニ先チ發送スヘシ

三、速達貨物用(二本赤筋入)

速達便貨物積載車、割増賃金ヲ收入シ旅客列車ニ連結運送スル積車、其他速達ヲ要スル爲メ運輸部營業課又ハ管理局營業課ニ於テ特ニ運送列車ヲ指示シタル積車ニ用ユ

四、空貨車用(縦一本赤筋入)

貨車車票取扱方

空貨車ニ用ユ

五、特定貨車用(十字形赤筋入)

運輸部營業課長ノ指揮ニヨリ管理局營業課ニテ廻送スル空貨車ニ限り用ユ

本車票挿入ノ貨車ハ他ノ空車ニ先チ廻送スヘシ

六、危険品貨車用(車票面ノ下部ニ赤ニテ「キ」ノ字崩シ)

危険品積載貨車ニ用ユ

第四 記入方

一、貨車記號、番號欄ニ左記ノ通り符合ヲ記入スヘシ

元局線所屬貨車

元西成線所屬貨車

元山陽線同

元日本線同

元甲武線同

元岩越線同

元阪鶴線同

元京都線同

元北越線同

元總武線同

元房總線同

元七尾線同

元關西線同

元參宮線同

會社線同

工 西 日 甲 岩 阪

京 北 總 房 尾 關 參 其線名

二、通常扱貨物積合車ノ車票ニハ品名欄ニ積合ト著驛欄ニ其著驛名ヲ列記スヘシ

三、貨物緩急車代用車ノ車票ニハ品名欄ニ代用ト著驛欄ニ代用區間ヲ記入スヘシ但一品積ノ場合ハ品名ヲ併記スヘシ

四、院用品ノミヲ積載シタル貨車ノ車票ニハ品目欄ニ院用ト附記スヘシ

五、他ニ同一名ヲ有スル驛行貨車ノ車票ニハ其著線名(、線)ヲ著驛欄ニ冠記シ又二驛以上ノ經由點ヲ有スル驛ニ向ケタル貨車ノ車票ニハ其經由驛名(、經由)ヲ著驛欄ニ冠記シ之ヲ明ニスヘシ

六、貨物列車編成ニ使用スル緩急車ノ車票ニハ著驛欄ニ該列車終著驛名ヲ又餘白ニ前、中、後部ノ別

ヲ記入スヘシ

但傾斜線ノ區間ニテ制動力ノ必要上増結スルモノ又ハ旅客列車ノ後部付ニ使用ノモノハ單ニ著驛欄ニ其區間終著驛名ヲ記入スヘシ

七、海陸連絡貨物ノ積載貨車ノ車票ニ限り著欄ニ其積載貨物ノ著線ト著驛名トヲ記入スヘシ

八、途中驛ニテ積載貨物ヲ他ノ貨車ニ積換タルトキハ其車票ノ原車號ヲ積換車ノ車號ニ訂正シ其裏面ニ「、」驛積換」ト明記シ當務者ノ印章ヲ押捺スヘシ

八ノ二、途中驛ニテ貨車行先ヲ變更シタルトキハ其車票面原著驛名ヲ變更著驛名ニ訂正ノ上其裏面ニ「、」驛訂正」ト明記シ當務者ノ印章ヲ押捺スヘシ

九、途中驛ニ於テ一車積貨物ヲ檢斤シタルトキハ該車票裏面ニ其ノ斤量及檢斤驛名ヲ記入シ當務者ノ印章ヲ押捺スヘシ

十、貨車車票紛失等ノ爲メ途中驛ニ於テ之ヲ挿入スルトキハ車票裏面ニ「、」驛再製」ト明記シ當務者ノ印章ヲ押捺スヘシ

十一、著驛ニ於テ特ニ必要ノ事情アル場合ニ限り發著驛打合セノ上貨車車票ノ著驛欄ニ荷受人名(可成略號)ヲ記載スルコトヲ得

十二、著驛ニ於ケル取卸場所ノ指定ヲ要スルモノニ在リテハ著驛欄ニ其場所ヲ簡單ニ(可成略號)朱記(桃色車票ハ墨書)スヘシ

十三、院用品積貨車ノ車票ニハ著驛欄ニ引渡先(建設、保線、倉庫、工場等可成字數省略)ヲ朱記(桃色車票ハ墨書)スヘシ

但シ専用貨車ヲ設ケ又ハ列車ヲ指定シテ輸送スル等既ニ引渡先ノ明瞭ナルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

(備考)
元山陽線所屬貨車ハ其車票框カ他貨車ノモノニ比シ大形ナルヲ以テ當分ノ間從來通りノ大サノモノヲ使用ス

但様式ハ普通小形ノモノト同様トス

戰時軍用貨物貨車車票ノ件

三年九月月
達第八二八號

戰時軍用貨物貨車々票其他左ノ通定ム

一様式

戰時軍用貨物貨車車票ノ件

軍用

白地		番號		月日
		記號	貨車名	
赤地		線		出
		驛經由		

二、本車票ハ陸海軍官衙直接ノ託送ナルト其指定代理人ノ託送タルトヲ問ハス戰時軍用タルコトノ明ナル貨物ノ積載車ニ使用スルモノトス

三、本車票ノ配給ヲ受クル迄ハ普通貨物用(白色)車票ノ下半部ヲ著色シテ使用スヘシ

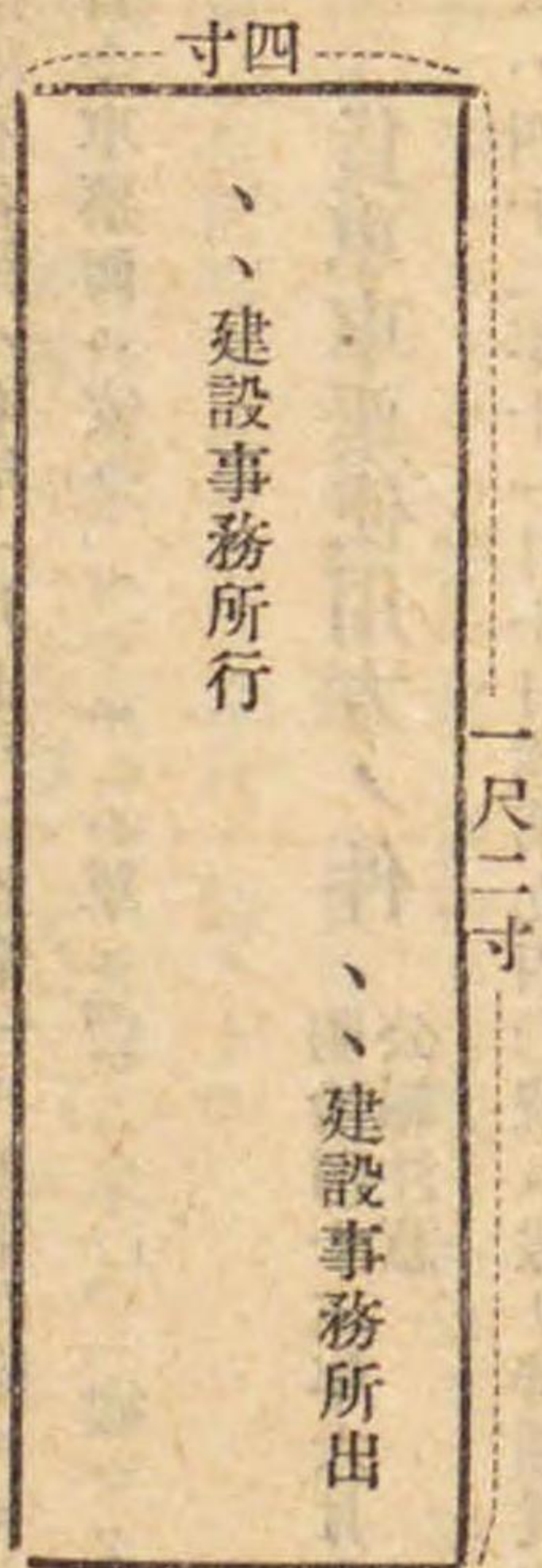
達第八二八號ニ依ル戰時軍用貨物用車票ヲ使用セル貨車ニシテ運送列車ヲ指定シタルモノハ其指定ニヨリ然ラサルモノハ明治四十三年一月達第五五號大貨物運送取扱手續第二條所定ノ順序ニ拘ラス優先運送スヘシ

建設用土運車空ニテ廻送ノ場合取扱方ノ件

明治四十五年七月十九日達第六八四號

自今建設用土運車ヲ空ニテ廻送スル場合ハ通常車票使用ノ外左記ニヨリ發送所名宛先ヲ明記セル木札ヲ車體ノ兩側ニ釘付スヘシ

例



貨車車票面ノ經由驛名記載方ノ件

明治四十四年六月十四日公報注意

貨車車票面ノ經由驛名ニ運賃計算上ノ經由驛名ヲ記名スルモノアルモ右ハ貨車ノ實際運送サルル徑

貨車車票面ノ經由線名記載方ノ件

二五三

路ノ驛名ヲ記入スヘキモノニ付注意ヲ要ス

車票面記載ノ摺附木品種區別ノ件

明治四十三年五月二十二日
公報注意

級外品第二種摺附木各種ハ本年一月十八日達第一八號第四條ニヨリ積載貨車ニ依リ其連絡列車ヲ異ニスルヲ以テ自今車票面ニ安全「マツチ」ハ單ニ「マツチ」、「蠟マツチ」ハ「洋マツチ」ト區別記載スヘシ

貨車車票使用方ノ件

明治四十三年六月六日
公報注意

生繭積ノ貨車ニハ四十二年十一月十日達第九四〇號ニ據リ特種貨物用(桃色)車票ヲ使用スヘシト雖モ干繭積ノ貨車ニ對シテハ普通貨物用(白色)ノモノヲ使用スヘキモノトス依テ生繭ト干繭トニ論ナク特種貨物用車票ヲ濫用スルトキハ却テ生繭積貨車ヲ遅延セシムルノ原因トナルヘキニ付特ニ注意ス

浦鹽連絡貨物積載貨車ニ特種車票使用ノ件

明治四十三年七月
達第六三四號

大阪神戸安治川口及和田岬發金ヶ崎著浦鹽連絡貨物積載車ニハ總テ特種貨物車票(桃色)ヲ用ヒ急遽運送方取計フヘシ

追テ四十一年八月一日鐵運乙第一七六五號達浦鹽行貨物積載車車票ノ件ハ之ヲ廢止ス

冷蔵車取扱手續

明治四十二年七月
達第五九〇號

冷蔵車取扱手續左ノ通り相定ム

冷蔵車取扱手續

第一條 冷蔵車ハ鮮魚、鮮肉、生果、生野菜其他變質ノ惧アル貨物ノ運送ニ使用スルモノトス

右等貨物搭載ノ要ナキトキハ特ニ他ノ貨物ヲ搭載スルコトヲ得尤モ石材類ノ如キ車體ニ毀損ヲ及ホスヘキ貨物又ハ動物其他臭氣ヲ發スル貨物ヲ搭載スヘカラス

第二條 冷蔵車ノ票記噸數及氷槽容積左ノ通りトス

- 一 自第一號 十輛 容積五噸 (氷槽ニ裝入シ得ル氷重量六噸)
- 一 自第十號 十輛 容積六噸 (ノ極量二、八二二斤)
- 一 自第十一號 二十輛 容積六噸 (氷槽ニ裝入シ得ル氷重量八噸)
- 一 自第三十號 二十輛 容積八噸 (ノ極量二、四八六斤)

第三條 搭載貨物ハ氷槽ニ裝入ノ氷ヲ合セテ票記ノ重量噸數ヲ超過スヘカラス

第四條 貸切扱賃金ハ氷槽ニ氷ヲ裝入スルト否トニ拘ラス貨車票記容積噸數以下ニテ貸切ルコトヲ

冷蔵車取扱手續

得サルモノトス

第五條 氷槽ニ用ユル氷ハ荷主ノ負擔トシ其斤量ハ搭載貨物ノ量目ニ合算スルモノトス

第六條 貨物賃金ハ一般貨車使用ノ場合ト同様ノ振合ニ依ルモノトス

第七條 第一條第一項指定貨物ノ運送ニ使用ノ時ハ貸切扱又ハ甲驛ヨリ乙驛ニ至ル締切扱ニ限ルモノトス

第八條 特ニ荷主ヲ定メテ貨車ノ使用ヲ約束スル時ハ總テ貸切扱ニ限ルモノトス

附 則

第九條 明治四十一年六月鐵運乙第一三八三號ハ之ヲ廢止ス

東、中、西、管理局管内貨車使用ノ件

明治四十二年十一月
達第九四四號

貨物ニヨリ貨車使用方區別左記ノ通り相定メ來ル十二月一日ヨリ實施ス

從來ノ諸達ニシテ本達ニ牴觸スルモノハ本達實施ノ日ヨリ廢止ス

第一 左記貨物ハ有蓋貨車ニ限り積載スヘシ

一、級外品第一種、生獸中、馬、駒、羊、山羊、驢

二、級外品第二種、危險品中、劇藥、石油類(鑛入箱詰ノモノ)滑附木各種、火口

三、同 第四種、死體

四、同 第五種、特種貴重品

五、高級品(鮮、生魚ヲ除ク)

六、一、二、三級品及級外第三種中鎖錠保護ヲ要シ雨浸火災ノ虞アルモノ

但シ鐵道運輸規程第九十五條但書ニヨリ特約スル場合ハ此限りニアラス

第二 級外品第一種生獸中牛、犢、豚ハ家畜車ニ積載スヘシ

但シ貨車不足ニシテ相當時日内ニ於テ配給ノ見込立タサル時ハ管理局營業課ハ木製有蓋貨車ニ積載方承認スルコトヲ得

第三 級外品第二種危險品中油紙、油布、生石灰、炭化石灰(カーバイト)ハ管理局營業課ニ於テ特ニ

運送方法ヲ指定スル場合ノ外全部鐵製有蓋貨車ニ限り又石油類(箱詰ニアラサル鑛入)ハ内部鐵張り又ハ全部鐵製有蓋貨車ニ積載スヘシ

但シ石油類ハ貨車不足ニシテ相當時日内ニ於テ配給ノ見込立タサルトキハ毫モ漏出ノ虞ナキヲ期シ得ヘキモノニ限り管理局營業課ハ木製有蓋貨車ニ積載セシムルコトヲ得

第四 鮮生魚ハ魚車又ハ冷藏車ニ積載スヘシ

但シ貨車不足ノ時ハ有蓋貨車ニ積載スルコトヲ得

東、中、西、管理局管内貨車使用ノ件

第五 三車以上ニ跨ル長大貨物ハ材木車又ハ鐵桁運搬車ニ積載スヘシ

第六 左記貨物ハ貨車運用上ノ必要ニ依リ特ニ管理局營業課ニ於テ承認スル場合ノ外有蓋貨車ニ積載スヘカラス
荷造ヲ施ササル石炭、砂利ノ如キバラ積ノモノニシテ戸扉ヲ壓シ運轉上危險ノ虞アルモノ

第七 第一項第六號ノ貨物ニシテ鐵道運輸規程第九十五條但書ニ依リ荷送人ト特約シテ之ヲ無蓋貨車ニ積載シ得ル場合左ノ通りトス

一、所屬線又ハ指定驛ニ向テ無蓋貨車ノ廻送ヲ要スル場合

二、有蓋貨車不足ノタメ又ハ貨車運用上其他緊要ナル事由ニヨリ管理局營業課ニ於テ一時限り又ハ長時ニ互リ品名著驛等ヲ指示シ承認スル場合

但シ管理局營業課ニ於テハ長時ニ互リ承認ヲ爲サントスル場合ハ豫メ運輸部營業課ニ打合ヲナスヘシ

第八 貨物ノ種類形狀等ノ都合ニヨリ本達指定ノ通り積載シ能ハサルモノハ所管事務所經由管理局營業課ニ届出テ指圖ヲ受クヘシ

第九 運輸部營業課又ハ管理局營業課ノ承認ヲ受ケ指定以外ノ貨車ニ積載シタルトキハ其車票裏面ニ「承認」ト記載捺印スヘシ

本達ニ於テ單ニ有蓋貨車ト稱スルハ油車及家具車ヲ含ム

貨車使用方連帶會社線ト相互ニ適用ノ件

明治四十三年六月十五日
公報注意

四十二年十一月達第九四四號貨物ニヨリ貨車使用方區別ノ件ハ左記會社線ト連帶輸送ノ場合ニモ適用ス但シ管理局營業課ニ於テ第三項危險品貨物ニ對シ全部鋼製有蓋貨車以外ノ貨車ヲ使用スル場合ハ豫メ關係會社ニ協議ヲ要スルモノトス

上武、東武、成田、水戸、川越、青梅、伊豆、豊川、尾西、近江、中越、河南、南海

道テ中國鐵道會社線發貨物ニ對シテハ貨車ノ設備ヲ異ニスルヲ以テ全然同一ノ取扱ハ爲シ得サルモ出來得ル限り院線所定ニヨルモノトス

北海道管理局米子出張所管内貨車使用方ノ件

明治四十四年九月
達第七六〇號

北海道管理局及米子出張所管内ニ於ケル貨物ノ種類ニヨリ貨車使用方左記ノ通相定ム

第一 左記貨物ハ有蓋貨車ニ限り積載スヘシ

一、級外品第一種生獸類

二、同 第二種危險品

北海道管理局米子出張所管内貨車使用方ノ件

三、同 第四種死 體

四、同 第五種特種貴重品

五、一、二、三級高級品及級外品第三種中鎖錠保護ヲ要シ雨浸火災ノ虞アルモノ
但鐵道運輸規程第九十五條但書ニヨリ特約シタル場合ハ此限ニアラス

第二 三車以上ニ跨ル長大貨物ハ材木車ニ限り積載スヘシ

第三 左記貨物ハ貨車運用上ノ必要ニ依リ特ニ管理局營業課(米子出張所ニ在テハ運輸係)ニ於テ承

認スル場合ノ外有蓋貨車ニ積載スヘカラス

荷造ヲ施ササル石炭、砂利ノ如キバラ積ノモノニシテ戸扉ヲ壓シ運轉上危險ノ虞アルモノ

第四 前項各種貨物ニシテ指定貨車ニ積載シ能ハサルトキハ所管運輸事務所長(米子出張所管内ニ

在テハ運輸掛)ノ承認ヲ經テ之ヲ指定以外ノ貨車ニ積載スルコトヲ得

此場合ハ車票裏面ニ「承認」ノ文字ヲ記載捺印スヘシ運輸事務所ニ於テハ承認車數、發著驛、品名ヲ

取纏メ一箇月毎ニ管理局營業課ニ報告スヘシ

九州管理局管内貨車使用方ノ件

明治四十二年九月
達第七六一號

九州管理局及鹿兒島出張所管内ニ於ケル貨物ノ種類ニヨリ貨車使用方左記ノ通り相定ム

第一 左記貨物ハ有蓋貨車ニ積載スヘシ

一、級外品第一種生獸類

二、同第二種危險品中劇藥石油類(罐入箱詰ノモノ)摺附木各種火口

三、同第四種死體

四、同第五種特種貴重品

五、高級品(鮮魚、生魚、介蟲、鮮肉ヲ除ク)

六、一、二、三級品及級外品第三種中鎖錠保護ヲ要シ雨浸火災ノ虞アルモノ

但鐵道運輸規程第九十五條但書ニヨリ特約シタル場合ハ此限りニアラス

第二 級外品第二種危險品中油紙、生石灰、炭化石灰(カーバイト)及石油類(箱入ニアラサル罐入)ハ

鐵製有蓋貨車ニ積載スヘシ

但油紙、生石灰、炭化石灰(カーバイト)ハ列車ヲ指定シテ運送スル場合又ハ石油類貨車不足ニシ

テ相當時目内ニ於テ配給ノ見込アラサルトキハ毫モ漏出ノ虞ナキヲ期シ得ヘキモノニ限り管理

局營業課ハ木製有蓋貨車ニ積載方ヲ承認スルコトヲ得

第三 鮮魚、生魚、介蟲、鮮肉ハ魚車ニ積載スヘシ

但魚車不足ノ場合ハ有蓋貨車ニ積載スルコトヲ得

九州管理局管内貨車使用方ノ件

第四 三車以上ニ跨ル長大貨物ハ材木車又ハ軌條車ニ限り積載スヘシ

第五 左記貨物ハ貨車運用上ノ必要ニ依リ管理局營業課ニ於テ承認スル場合ノ外有蓋貨車ニ積載スヘカラス

荷造ヲ施ササル石炭、砂利ノ如キバラ積ノモノニシテ戸扉ヲ壓シ運轉上危險ノ虞アルモノ

第六 前項各種貨物ニシテ指定貨車ニ積載シ能ハサルトキハ運輸事務所（鹿兒島出張所管理内ニ在テハ運輸掛）ノ承認ヲ受ケ之ヲ指定以外ノ貨車ニ積載スルコトヲ得此場合ハ車票裏面ニ「承認」ノ文字ヲ記載捺印スヘシ

運輸事務所ニ於テハ承認車數、發著驛、品名ヲ取纏メ一箇月毎ニ管理局營業課ニ報告スヘシ

九州管理局所屬貨車本州線内使用方ノ件

明治四十四年九月
達第六九〇號

關門間貨車連絡輸送開始後九管所屬貨車中「サイドブレーキ」裝置ナキモノヲ本州線内ニ於テ使用スル場合ニハ左記各項ニ依リ取扱フヘシ

- 一、「サイドブレーキ」裝置ナキ貨車車體ノ中央部ニ白色「ペイント」ヲ以テ水平ニ巾二吋ノ線一條ヲ四隅ニ標記スルコト
- 一、前記貨車ハ構内入換ヲ爲スニ特別ノ注意ヲ用フルコト

一 前記貨車ヲ「サイドブレーキ」緊締區間運轉ノ列車ニ連結スルトキハ三輛以上六輛迄又六輛以内ヲ増ス毎ニ何レモ制動軸二軸ヲ増加スルコト

汐留著貨物ニ對シ「ボギー」車使用ニ關スル件

明治四十三年十月
達第八七九號

自今汐留著貨物ニ對シ「ボギー」車ヲ使用スヘカラス但貨物ノ形狀ニヨリ已ムヲ得ス之ヲ使用セントスルトキハ豫メ中部管理局ニ之カ打合ヲ爲スヘシ

生石灰積載木製有蓋貨車ヲ混合列車ニ聯結

輸送方ノ件

明治四十五年三月
達第二五一號

北海道管理局

生石灰ヲ積載シタル木製有蓋貨車ハ當分ノ内定期貨物列車ノ運轉セサル區間ニ於テハ晝間運轉ノ混合列車ニ限り聯結輸送スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ該貨車ハ客車ニ對シ二輛以上ヲ隔テ且可成機關車ト隔離シテ聯結スヘシ

果物又ハ蔬菜積ニ魚車使用ノ件

明治四十三年六月二十三日
公報注意

果物又ハ蔬菜積ニ魚車使用ノ件

二六三

果物又ハ蔬菜類積載用トシテ荷主ヨリ魚車ノ要求アリタル場合ハ出來得ル限り其需ニ應シ使用スヘシ

但鐵道運輸規程第九十五條ニ依リ特約ノ手續ヲ爲スヘシ

生果積有蓋貨車使用ノ場合取扱方ノ件

三年六月
達第六一〇號

改正
第三
第一一五四號

生果、野菜類輸送ノ爲有蓋貨車使用ノ場合ニ於テ車扉、一部ヲ開キタル儘運送方荷主ヨリ申出アリタル時ハ左記ニ依リ其需ニ應スルコトヲ得

- 一 開扉ノ爲ニ起ル損害ハ荷主負担ノ條件ヲ附シ其旨運送狀ニ記入セシムルコト
- 一 運轉中墜落ヲ防ク爲荷主ノ費用ヲ以テ車體ニ毀損ヲ及ホササル方法ニ於テ適當ナル設備ヲ爲サシムルコト

七尾、房總貨車容積算出方ノ件

明治四十年八月
鐵運乙第九二九號

七尾及房總兩鐵道會社所屬貨車ノ容積ハ立方呎ヲ標記シアルヲ以テ來ル九月一日以降百立方呎未滿ノ端數ハ七十五立方呎以上ハ一噸ニ切上ゲ七十五立方呎以下ハ切捨テ取扱フヘシ

例

七百七十五立方呎ハ八百立方呎ニ切り上ケ容積八噸トシ七百七十四立方呎ハ七百立方呎ニ切り捨テ容積七噸トスルコト

東部管理局所屬九噸石炭車使用方ノ件

明治四十三年一月
達第二一號

東部管理局所屬石炭車ノ内側板四枚重量九噸容積七噸ニ改造サレタルモノニ左記貨物ヲ貸切扱ニヨリ積載シタル場合ハ四十二年五月四日達第三七四號第二項ニ據ラス總テ標記重量噸數ニ依リ取扱フヘシ

- 一 石炭、石材、礫石、鐵、煉瓦、土砂、

東部管理局所屬鐵製石炭車噸數ニ關スル件

元年九月
達第一二七號

當分ノ内東部管理局所屬鐵製石炭車(手用制動機付共)ハ常磐線發隅田川著塊炭積ノ場合其ノ實量八噸未滿ノトキニ限り票記噸數ニ拘ハラズ之ヲ八噸ニ取扱フコトヲ得

重量品運搬車貸切使用ノ時最低噸數ノ件

二年四月
達第三一八號

重量品運搬車貸切使用ノ時最低噸數ノ件

二六五

型式第三〇號重量品運搬車ヲ貸切扱ニ使用スル場合其最低噸數ヲ二十噸ト定ム仍テ二十噸以上ハ標記噸數ニ至ル迄貨物ノ實量ニヨリ取扱フヘシ

材木車使用ノ場合最低噸數ノ件

三年四月
達第三四四號

型式第二一〇九〇號材木車(標記荷重廿五噸)ヲ貸切扱ニ使用スル場合其最低噸數ヲ十五噸ト定ム仍テ十五噸以上ハ標記噸數ニ至ル迄貨物ノ實量ニヨリ取扱フヘシ

ボギー無蓋貨車積載噸數ノ件

明治四十一年九月三十日
公報注意

三十九年八月二十一日汽運第二十五號ニ依リ「ボギー」無蓋貨車「ムボ」ノ積載重量ハ

一 側板ヲ取付ケタル場合

十五噸

但一箇所ニ集合セル積荷ハ

八噸

一 側板ヲ取外シタル場合

十二噸

但一箇所ニ集合セル積荷ハ

六噸

ト定メタルカ右一箇所ニ集合セル積荷トハ床面中央部ニ積載セラレ且ツ其長サ十五呎以下ナルトキ有蓋ニテ積載セル積貨ハ八噸マテ又十五呎以上ニ涉ルトキハ十八噸マテ積載スルコトヲ得

但貨車貸切扱ノ場合ハ標記容積噸數未滿ニテ賃金計算使用スルコトヲ得サルハ勿論トス

長尺鋼製無蓋貨車ノ件

明治四十三年一月十四日
公報注意

四十二年六月十日達第四八九號英國製鋼製石炭車第一號ハ容積十一噸重量二十四噸ニシテ車體内部ニ於テ

長サ 三五呎十一吋八分ノ五

幅 七呎五吋八分ノ五

深サ 四呎四吋

ヲ有シ四十二年十一月二十四日達第九八九號大阪汽車製造合資會社製造木製ボギー無蓋貨車第一〇〇一號ヨリ第一〇〇五號ニ至ル五輛ハ容積十四噸重量二十五噸ニシテ内部ニ於テ

長サ 三十呎九吋

幅 七呎四吋

深サ 二呎四吋四分ノ一

長尺鋼製無蓋貨車ノ件

ヲ有シ長尺貨物運送ニ適スルモノニ付爲念注意ス

貨車封印規程

明治四十二年八月 改 四十二年 四十五年
運第七〇三號 正 達第一一五號 達第三九〇號

第一條 貨車ノ施封開封ハ貨物掛之ヲ行フモノトス

第二條 貨車ノ施封開封ハ發送貨物ニ在ツテハ在中貨物ニ、到著貨物ニ在ツテハ封印ニ異狀ナキヲ

確メタル上之ヲ爲スヘシ

貨切扱貨車ニ對シテハ封鎖開封トモ特ニ荷主立會ノ上之ヲ爲スモノトス

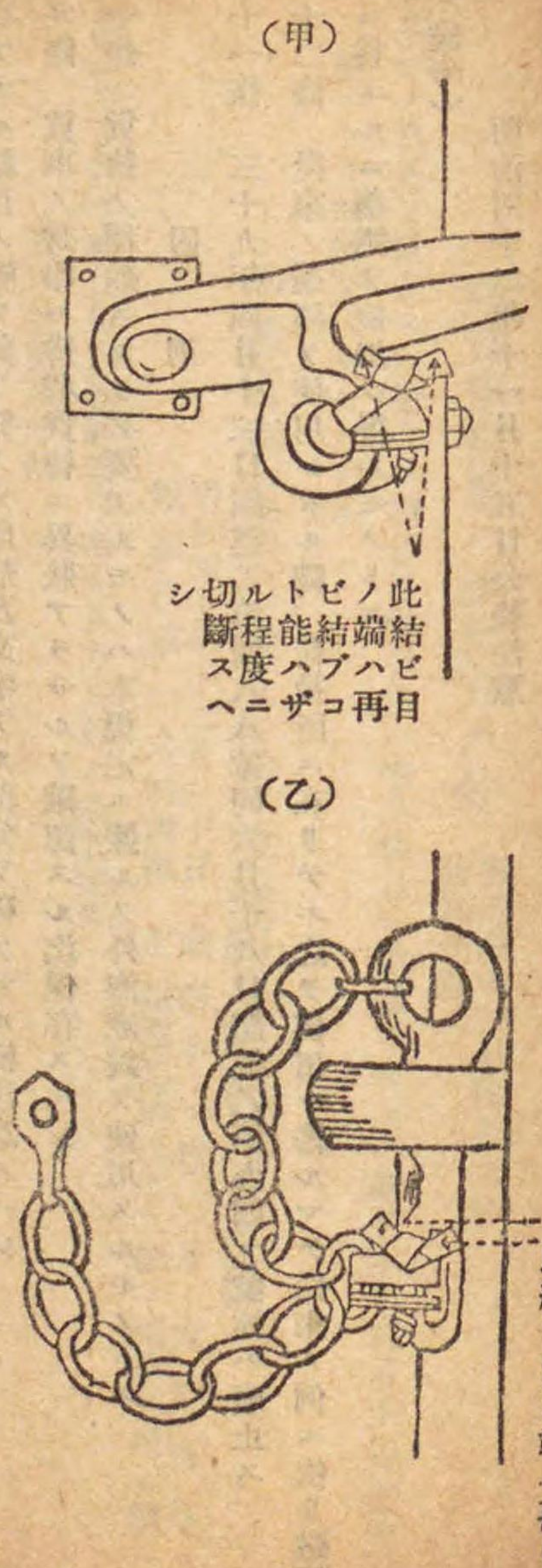
第三條 封印ハ左圖ニ示ス甲乙二種ノ方式ニ依リ十六番鐵線及堅牢質ノ油紙ヲ共用スルモノトス

(甲)十六番鐵線ヲ以テ「ド」アラツテ「レ」ヲ二重卷トシテ其兩端ヲ捻結シ油紙ハ(一葉八ツ切)四ツ折トシテ之ヲ一重卷トシ其兩端ヲ緊結シテ端末ヲ極メテ短カク切捨ツヘシ

(乙)十六番鐵線ヲ以テ「ピン」ニ附著ノ鎖ト下部ノ穴ヲ連結二重卷トシテ其ノ兩端ヲ捻結シ油紙ハ(一葉八ツ切)四ツ折トシテ之ヲ二重卷トシ甲ト同シク其兩端ヲ緊結シテ端末ヲ極メテ短カク切捨ツヘシ

捨ツヘシ

貨車封印ノ圖



第四條 封印紙ニハ發驛名、發送月日、貨車記號、番號ヲ記入シ當該掛員ノ檢印ヲ押捺スヘシ尙貨切扱貨車ニ對シテハ荷主ノ認印ヲモ之ニ押捺セシムヘシ

第五條 海陸連絡貨切貨物ヲ海陸接續地點ニテ貨車ヨリ船舶ニ船舶ヨリ貨車ニ積替ヘスル場合ニ在

貨車封印規程

テハ第二條荷主ノ立會及第四條荷主ノ認印ヲ押捺スルコトヲ要セサルモノトス

第六號 封印紙ノ結目ニハ當該掛員ノ檢印ヲ出來得ル限り明瞭ニ押捺スヘシ

第七條 封印紙ノ内容及結目ノ掛員檢印ハ當該貨車車票面ノ檢印ト同一ノモノタルヘシ

第八條 封印紙ヲ除去スルニハ二重卷ニ在ツテハ其結目ヨリ解カスシテ裏面中央ヲ切斷シ一重卷ニ在ツテハ結目ノ際ヲ剪リ努メテ印形及文字アル部分ヲ破ラサル様注意スヘシ

第九條 貨車ノ封印ハ搭載貨物ニ異狀アラサルヲ確認スル迄保存スヘシ

第十條 貨物ノ種類ニヨリ必要アルモノハ本規定ニ據ルノ外海老錠ヲ使用スルモノトス

附 則

第十一條 三十九年四月十三日鐵運乙第四八八號同六月十八日鐵運乙第九四九號達ハ廢止ス

第十二條 從來ノ藁繩ヲ使用シタル驛、荷扱所ニ在リテハ之ヲ使用シ終ルマテ從來ノ例ニ依リ鐵線ニ替ユルニ藁繩ヲ使用シ得ルモノトス

(備考)

明治四十二年十一月十五日公報注意

貨車封印方ハ本年八月達第七〇三號ヲ以テ甲乙二様ノ方式ヲ示シアルニ拘ハラズ近時實際ノ施封ノ方ヲ見ルニ甲式ノ場合ニ於テ封印紙ヲ二重卷トスルモノ又ハ結目ニ於テ鐵線ノ施封ノ方ヲ見ルニモノ鈔ナカラス元來封印ノ完否ハ貨物授受上重大ナル關係ヲ惹起スヘキニ付必ス所定ノ方式ニ違ハサル様一層ノ注意ヲ拂フヘシ

客貨車自重ノ換算方ノ件

明治四十三年四月九日 公報注意

客貨車ノ自重ヲ檢査スル場合ニ和斤ヲ噸ニ又ハ噸ヲ和斤ニ換算スルニハ總テ本年三月十二日達第一六三號ニヨリ取扱フヘキモノトス

中繼貨車著發手帳及貨車連結順序帳記入方ノ件

明治四十年十二月三十日 改四十一年三月 大正四年
鐵遠乙第一九四四號 正鐵運乙第五七二號 達第一四七號

中繼貨車著發手帳及貨車連結順序帳記入方左記ノ通改定ス

貨車連結順序帳

- 一 本手帳ニハ列車到着又ハ出發ノ際ニ於ケル連結貨車(自驛發著ト通過トヲ問ハス)ヲ前部ヨリ順次ニ列記スヘシ
- 一 本手帳ハ各列車組立驛ニ備ヘ本線及支線毎ニ上下ニ區別スヘシ

中繼貨車著發手帳

中繼貨車著發手帳及貨車連結順序帳記入方ノ件

一 本手帳ニハ其驛通過ノ貨車ニシテ一旦解放シ更ニ他ノ列車ニ連結繼送スルモノ（組立驛ニテハ貨車發著手帳ヨリ拔萃）ヲ記入スヘシ

一 本手帳ハ各列車組立驛接續驛ニ備エ本線支線毎ニ上下ニ區別スヘシ

貨車連結順序帳及中繼貨車著發手帳備付驛ヲ左ノ通定ム

明治四十一年三月鐵運乙第五六八號ハ之ヲ廢止ス

貨車連結
順序帳備
著發手帳
備付驛

中繼貨車
著發手帳
備付驛

記事

（東海道本線）

汐留 東神奈川
横濱 程ヶ谷
大船 大塚
平塚

貨車連結
順序帳備
著發手帳
備付驛

中繼貨車
著發手帳
備付驛

記事

沼津 三島
静岡 富士
濱松 天龍川
濱松 豊橋

名古屋 大府
一ノ宮 熱田
大垣 米原

池田 池田
福知山 福知山
敦賀 中ノ郷
敦賀 今庄

（北陸本線）

貨車連結順序帳ハ山陰線
下リ列車出發及上リ列車
到著ノミニ對シ記帳ノコ
ト

米原 彦根

福井 福井
福井 金津

大津 大津
貨車連結順序帳ハ下リ列
車到著及上リ列車出發ノ
ミニ對シ記帳ノコト

福井 福井
福井 金津

梅小路 梅小路
大阪 大阪

金澤 金澤
津幡 津幡

神戶 神戶
貨車連結順序帳ハ下リ列
車出發ニ對シ記帳ヲ要セ
ス

石動 石動
高岡 高岡

（福知山線）

中繼貨車著發手帳及貨車連結順序帳記入方ノ件

糸魚川 糸魚川

(中央本線)

飯田町

國分寺

八王子

立川

八王子

甲府

大月

上諏訪

上諏訪

鹽尻

辰野

木曾福島

木曾福島

三田尻

三田尻

小郡

宇部

厚狭

下關

下關

(讃岐線)

多度津

(山陰本線)

綾部

和田山

鳥取

上井

中繼貨車著發手帳及貨車連結順序帳記入方ノ件

多治見 多治見

(篠ノ井線)

松本

兵庫

兵庫

(山陽本線)

姫路

加古川

岡山

岡山

糸崎

糸崎

廣島

廣島

柳井津

柳井津

米子

出雲今市

龜山

彌富

龜山

植山

加茂

加茂

奈良

木津

王寺

王寺

(關西本線)

貨車連結順序帳ハ下リ列車出發ニ對シ記帳ヲ要セ

貨車連結順序帳ハ上リ列車出發ニ對シ記帳ヲ要セ

貨車連結順序帳ハ支線ノミニ對シ記帳ノコト

柏原

天王寺

湊町

(草津線)

貴生川

(片町線)

放出

(和歌山線)

吉野口

五條

仙臺

仙臺

盛岡

盛岡

青森

(山手線)

大崎

池袋

池袋

中繼貨車著發手帳及貨車連結順序帳記入方ノ件

(東北本線)

秋葉原

田端

大宮

小山

宇都宮

黒磯

郡山

福島

赤羽

大宮

久喜

栗橋

小山

宇都宮

黒磯

白河

北千住

柏

我孫子

取手

土浦

友部

水戸

勝田

湯本

平

原ノ町

隅田川

原ノ町

隅田川

(常磐線)

(高崎線)

熊谷

深谷

高崎

高崎

(兩毛線)

桐生

伊勢崎

(足尾線)

相老

神土

(水戸線)

下館

(總武本線)

兩國橋

米澤

赤湯

山形

新庄

新庄

院内

秋田

横手

秋田

土崎

大館

大館

弘前

(信越線)

横川

横川

貨車連結順序帳ハ總武本線ハ上リ始發下リ終着列車ノミニ對シ記帳ノコト

千葉

千倉

(房總線)

本千葉

蘇我

大網

真岡

(眞岡輕便線)

若松

(岩越線)

若松

(奥羽本線)

輕井澤

篠ノ井

長野

直江津

柏崎

長岡

新津

新津

(九州線)

門司

折尾

吉塚

博多

鳥栖

久留米

貨車連結順序帳ハ中央線列車ノミニ對シ記帳ノコト

石炭列車ニ對シテハ記帳ヲ要セス

大車田
熊本
八代
人吉
吉松
鹿兒島
久保田
武雄
早岐
大村
長崎

相知
西唐津
行橋
中津
柳ヶ浦
日出
大分
後藤寺
直方
飯塚
金田

貨物運送日報記入手續並取扱方

明治四十一年五月
鐵運乙第九九五號

貨車使用日報ヲ貨物運送日報ト改稱シ之ト同時ニ別紙ノ通樣式及取扱手續ニ改正ヲ加ヘ來六月一日

取扱手續

- 一、本表ハ毎日終列車後調製シ之ヲ原簿及薄葉一枚ニ複寫シ本表及薄葉ハ翌日指定列車（營業事務所ニテ指定ノコト）ヲ以テ所管營業事務所ニ送付スヘシ
- 二、營業事務所ハ調査ノ上一日分宛取纏メ別ニ定ムル冠紙ヲ付シ本部貨物課（貨車掛）ニ送付スヘシ
- 三、貨車狀況欄ニハ貨車集配手續第四條乃至第六條ノ例ニ依リ記入スヘシ
但請求車ハ貨車ノ種類、輛數（臨時請求ノモノ共）ノミヲ記入シ行先ヲ表ハスニ及ハス
- 四、使用貨車欄ニハ當日取扱ニ係ル積車ヲ總ヘテ左記順序ニヨリ行先、品目、車種別ニ記入スヘシ
但積合車ハ行先欄ニ積合驛ヲ列記シ品目欄ニ積合ト記入ノ事又代用車ハ品目欄ニ代用ト記入ノ事又應用品ハ品目欄ニ有貨ハ×無貨ハ△ノ符號ヲ附記スヘシ
- 第一 管内上リ各驛行
- 第二 管内下リ各驛行
- 第三 管外各驛行（各營業事務所及社線毎ニ區分列記ノ事）各區分毎ニ小計ヲ朱書シ末尾ニ貨車ノ種類別小計ヲ作り更ニ其總計ヲ記入スヘシ
- 五、貨物著發數量及收入欄ハ左記ニヨリ記入スヘシ
一、級外品第一種生獸類ハ數量（頭數）ヲ以テ表ハスコト）收入共貸切欄ニ算入ノコト

貨物運送日報記入手續並取扱方

- 二、同第三種車輛類及第四種死體ハ數量ハ計算セス收入ハ通常欄ニ算入ノコト
- 三、合計ノ際ハ斤扱ハ噸ニ換算スヘシ而シテ噸又ハ圓未滿ハ四捨五入ノコト
- 四、無貨應用欄ハ斤扱ハ噸ニ換算シ噸未滿ハ四捨五入ノコト
- 六、在貨數量ハ驛構内ニ持込アルト附近ノ倉庫等ニ在ルトヲ問ハス貨主ニ於テ發送準備ノ整ヒ居ル貨物ハ總テ計上スルモノトス而シテ行先ハ管内行ヲ表ハシ管外行ハ各營業事務所及會社線別トスヘシ

- 但長野營業事務所管内行在貨ハ高崎驛經由ノモノト中央東線經由ノモノトヲ區別記入ノコト
- 七、翌日分請求車欄ハ在貨ニ對シ翌日中ニ何時タリトモ積込得ヘキ貨物ニ要スル貨車ノ行先(管内行ハ各其行先ヲ表ハシ管外行ハ各營業事務所及會社線別トス)種類、輛數ヲ記入スヘシ
- 八、貨車ノ種類ハ總ヘテ略符號ヲ用ユヘシ又行先驛名ハ使用貨車欄以外ニ於テハ略符號又ハ頭字ヲ記入スヘシ
- 九、記事欄ニハ毎日必ス出荷ノ狀勢、貨車ノ配給及連絡竝ニ貨物積込等ニ關シ詳細記入スヘシ

貨車著發成績及配給簿樣式並記入方ノ件

明治四十三年二月廿三日
達 第一一 一二 號

改 四十四年十二月
達 第九四八號

貨車著發成績及配給簿樣式並記入方左ノ通改定シ來三月一日ヨリ實施ス

四十年六月鐵運乙第五三一號四十一年二月第三三四號同年三月同第五六九號及第五八一號達ハ廢止ス

- 一、本帳簿ハ自驛發著貨車ノミヲ記入シ中繼貨車及建設部土運車若クハ修繕車トシテ工場又ハ機關庫宛ニ到着シタルモノハ記入セサルモノトス
- 二、空車又ハ貨物積合車、代用車ニアリテハ品名欄ニ空又ハ積合若クハ代用ト又院用品積車ニアリテハ貨主欄ニ院用ト附記スヘシ
- 三、到着後修繕車トナリタルモノハ記事欄ニ修繕ト朱記シ發送欄及經過時分欄ニハ記入セス又修繕落成車ハ工場又ハ機關庫ヨリ引渡ヲ受ケタル時分ヲ以テ到着ト見做シ到着欄ニ記入シ其發驛欄ニ落成車ト朱記スヘシ
- 四、管理局(管理局出張所管内ハ出張所又營業課派出員受持管内ハ派出員)又ハ運輸事務所ニ於テ貨車集配上ノ都合ヲ以テ空貨車ヲ管理局指定ノ驛ニ廻送シ同驛ヨリ更ニ他驛ニ配送スル場合ハ中繼車ト見做シ本帳簿ニ記入セサルモノトス
- 五、空貨車使用ノ途ナク管理局(管理局出張所管内ハ出張所又營業課派出員受持管内ハ派出員)又ハ運輸事務所ヨリ留置ヲ命シタル場合ハ留置ト記事欄ニ朱書シ第三項修繕車記帳方ニ準シ貨車ノ必

貨車著發成績及配給簿樣式並記入方ノ件

貨車著發成績旬報及列車組立驛接續驛ニ於ケル中繼貨車

成績旬報調製方ノ件

明治四十四年十二月
達第九四七號

東、中、西部管理局

貨車著發成績旬報及列車組立驛接續驛ニ於ケル中繼貨車成績旬報調製方左ノ通改正シ來四十五年一月上旬分ヨリ實施ス

明治四十三年二月達第一一三號ハ之ヲ廢止ス

一、各管理局ハ左記様式ニ據リ翌旬六日以内ニ貨車著發成績旬報及中繼貨車成績旬報ヲ本院營業課ニ提出スヘシ

二、一車ノ平均滯留時間カ著發貨車ニアリテハ十二時間（院用品ハ取卸場へ轉線後取卸終了迄二十時間）又中繼貨車ニアリテハ五時間ヲ經過シタルモノニ對シテハ其事由ヲ記事欄ニ記入スヘシ

三、本旬報調製ノ爲ニ要スル各驛所ヨリ運輸事務所（派出駐在所ヲ含ム）及管理局へノ報告様式ハ所管管理局ニ於テ之ヲ定ムヘシ

事務所 派出駐在所	貨車著發成績旬報						合計	實際 滯留時間	一車平均 實際滯留時間	記 事
	六時間 以内	九時間 以内	十二時 間以内	十五時 間以内	十五時 以上	合計				
合 計										

至ル哩程ヲ記入スヘシ

第三條 貨物掛ハ前條ノ依托ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ第一種貨物運送通知書ヲ發行シ記事欄ニ其
費目及運賃仕拂者名ヲ明記スヘシ

第四條 院用物品運送ニ關シ其積卸、受授、保管及帳表類整理方法等ノ事項ハ左記各號ヲ除クノ外一
般大貨物ニ準シ取扱フヘシ

一、無賃扱貨物ニ對スル到着貨物月報ハ提出ニ及ハス

二、列車ヲ専用シテ輸送セラル、場合ニ於テ運送狀及貨物通知書ハ無賃扱ナルトキハ發行ヲ要セ
ス又改良用品ナルトキハ之ヲ省略シ若クハ一部變更スル等管理局長ニ於テ便宜ノ方法ヲ設クル
コトヲ得

第五條 貨物掛ハ院用物品運送ノ依托ヲ受ケタルトキハ可成營業貨物ニ先チ之ヲ發送スヘシ

第六條 本達ハ小荷物扱ニ屬スヘキ院用物品運送ニ之ヲ適用セス依テ該物品ハ從來ノ取扱方ニ依リ
無賃送貨狀ヲ以テ運送スヘシ

(備考) 明治四十一年六月十七日公報注意

本年五月達第二九八號院用物品運送手續申第二條ノ無賃扱貨物ノ托送者ハ掛主任又ハ其代理者相當

院用品運賃其他ノ件

明治四十二年十一月
達第九二九號

改四十二年
正達第一〇一號
大正元年
達第一七六號

院用品運賃其他左ノ通り相定メ來ル十二月一日ヨリ實施ス

一、院用品一噸以上ハ總テ貸切扱トシ運賃ハ後拂トス

二、運賃 一級品貸切扱院一般運賃ノ五割減

但シ營業線内ニ於テ運送スル建設用空貨車ハ相當運賃ノ五割減

三、長尺重量物ニ對シテ規定ノ割増ヲナサス

四、左記ノ院用品ハ無賃トス

一噸未滿ノモノ

作業用品

五、本達ニ規定セサル事項ハ一般規定ヲ準用ス

附 則

六、後來ノ諸達ニシテ本達ト重複スルモノハ本達實施ノ日ヨリ廢止ス

連絡船ニ於ケル作業品以外ノ院用品運賃

明治四十三年七月
達第六一四號

改正
大正元年
達第一一七號

四十一年七月達第三九一號當院所屬連絡船ニ於ケル作業用品以外ノ院用品運賃其他左記之通改メ本
月十日ヨリ實施ス

一、運賃

青森函館間

通常斤扱

百斤ニ付

金拾五錢

噸扱及貸切扱

一噸ニ付

金貳圓

舞鶴境間

通常斤扱

百斤ニ付

金貳拾壹錢

噸扱及貸切扱

一噸ニ付

金參圓

下關又ハ門司ト釜山間

通常斤扱

百斤ニ付

金貳拾五錢

噸扱及貸切扱

一噸ニ付

金參圓四拾錢

下關門司間

通常斤扱

百斤ニ付

金五錢

同噸扱

一噸ニ付

金六拾錢

貸切扱

同

金五拾錢

宇野高松間

通常斤扱

百斤ニ付

金拾錢

噸扱及貸切扱

一噸ニ付

金壹圓貳拾錢

- 一、長尺濶大品ニ對シテハ規定ノ割増ヲ爲サス
- 一、各航路ニ於ケル取扱制限ハ一般貨物連絡ノ場合ニ同シ
- 一、賃金ハ總テ後拂トス
- 一、百斤未滿ノモノハ無賃トス
- 一、本達ニ規定セサル事項ハ一般ノ規定ヲ準用ス

連絡船ニ於ケル作業品以外ノ院用品運賃

院用品賃金中ニ火藥類及級外品第二種危險品ヲ

含マサルノ件

明治四十四年五月四日
公報注意

四十二年十一月達第九二九號及四十三年七月達第六一四號院用品賃金中ニハ火藥類及級外品第二種危險品ヲ含マサルモノトス

建設部所屬土運車廻送賃金ニ關スル件

明治四十四年七月二十八日
公報注意

建設材料積取ノ目的ヲ以テ建設部所屬土運車ヲ迎車トシテ營業線内へ廻送ノ場合往路ニ於ケル又ハ建設部所屬土運車ヲ以テ營業線内建設材料ヲ輸送シタル場合復路ニ於ケル空車ノ賃金ハ計算ヲ爲ササルモノトス

臨時列車ニテ運搬スル改良用品運賃ノ件

明治四十四年五月卅一日
公報注意

臨時列車ヲ以テ運搬スル改良用品運賃ノ義ニ關シ左ノ通り中部鐵道管理局長稟申ニ對シ依命回答アリタリ

左記

明治四十四年五月三日

中部鐵道管理局長

總裁 宛

稟 申

客年十二月二日達第一〇一一號ヲ以テ本年四月ヨリ改良費支辨ニ係ル建築用臨時列車ニテ運搬スル材料品ハ有賃扱ト相成候處改良工事土工用臨時列車ハ多クハ營業線ト土工用假線ニ亘リ運轉スルタメ其計算複雑ナルノミナラス營業線ノミヲ運轉スル場合ト雖モ請負工事ニ對シテハ其工事ノ進捗ヲ敏速ナラシムルタメ運轉ニ要スル石炭及消耗品ヲ請負人ノ負擔トシ乗務者給料ヲ當局支辨トシテ契約スルノ例モ有之候ニ付建築用臨時列車ヲ以テ運搬スル場合ハ凡テ從前ノ通り無賃ノ事ニ致度候ニ付至急詮議相成度

明治四十四年五月三十日

鐵道院營業課長

中部鐵道管理局長宛

依命回答

臨時列車ヲ以テ運搬スル改良品運賃ノ儀ニ關シ中管甲第五八八號ヲ以テ稟申相成候處運賃無料ノ義ハ一般整理上差支候ニ付總テ之ヲ徴收スルコトトシ其運賃ハ貴官ニ於テ適當ト認メラルル範圍ニ於テ相當計算徴收相成度

臨時列車ニテ運搬スル改良用品運賃ノ件

二九五

荷物代金引換規程

四年一月 改四
告示第二號 正 告示二二號

荷物代金引換規程左ノ通定メ大正四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 左ニ掲クル荷物ノ荷送人ハ其ノ託送荷物ト代金トノ引換ヲ鐵道ニ委託スルコトヲ得但シ貨物引換證又ハ船荷證券發行ノモノ及蠶卵紙、生鮮魚、鮮肉、動物其ノ他腐敗シ易キモノハ此ノ限ニアラス

一 小荷物

- (イ) 通常小荷物
- (ロ) 易損品、嵩高品
- (ハ) 貴重品第一種及第二種
- (ニ) 車輛類

二 大貨物

- (イ) 速達便扱
- (ロ) 通常扱
- (ハ) 貸切扱
- (ニ) 級外品中車輛類

第二條 引換代金額ハ一口ニ付金千圓以下トシ錢位未滿ノ端數ナキモノニ限ル

第三條 代金引換荷物ノ受託驛所ハ左ノ通トス

東京、新橋、汐留、東京市内營業所、萬世橋、飯田町、秋葉原、	上野(東)、隅田川、兩國橋、横濱、横濱市内營業所、静岡、	濱松、豊橋、熱田、名古屋、名古屋市内營業所、岐阜、	京都、京都市内營業所、梅小路、大阪、大阪荷扱所、大阪市内營業所、	三ノ宮、神戸、福井、金澤、高岡、富山(北)、甲府、	松本、兵庫、岡山、尾道、廣島、下關、高松(讚)、	松江(山陰)、四日市(關)、湊町、津、宇都宮、福島(東)、仙臺、	青森、水戸、米澤、秋田、長野、長岡、門司、	門司荷扱所、博多、博多小荷物取扱所、久留米、熊本、鹿兒島、	長崎、長崎小荷物取扱所、函館、中央小樽、小樽、手宮、	札幌、旭川、室蘭、釧路、
-------------------------------	------------------------------	---------------------------	----------------------------------	---------------------------	--------------------------	----------------------------------	-----------------------	-------------------------------	----------------------------	--------------

第四條 代金引換荷物ヲ受付ケタルトキハ發驛ハ代金引換證ヲ荷送人ニ交付スルモノトス

第五條 代金引換荷物到着シタルトキハ著驛ハ其ノ旨ヲ荷受人ニ通知シ代金ト引換ニ之ヲ引渡スモノトス但シ配達附ニ係ルモノハ代金受領後配達ヲ爲スモノトス

荷受人カ荷物到着ノ通知ヲ受ケタル後三日以内ニ代金ト引換ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ以後ノ經過時間ニ對シ成規ノ保管料ヲ收受スルモノトス

第六條 著驛ニ於テ引換代金ヲ受領シタルトキハ代金引換濟通知書ヲ荷送人ニ送付スルト共ニ其ノ旨ヲ發驛ニ通知スルモノトス

發驛ニ於テ著驛ヨリ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ荷送人ニ對シ之カ支拂ヲ爲スヘキ旨通知スヘシ
第七條 荷送人ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ代金引換濟通知書及代金引換證ヲ提出シ之ト引換ニ

發驛ヨリ代金ヲ受取ルモノトス
第八條 代金引換證ヲ亡失シタルトキハ荷送人ニ於テ其ノ正當權利者タルコトヲ證明シタル場合ニ

限リ鐵道ハ引換代金ヲ支拂フモノトス
代金引換濟通知書ヲ亡失シタルトキハ荷送人ハ之カ再交付ヲ著驛ニ請求スルコトヲ得但シ之ニ要スル費用ヲ負擔スルモノトス

第九條 荷送人ハ左記各號ノ場合ニ於テ小荷物切符又ハ貨物通知書及代金引換證ヲ提出シ引換代金額ノ増減代金引換ノ取消又ハ追付ヲ發驛ニ請求スルコトヲ得

一 引換代金ノ増額又ハ代金引換ノ追付ハ荷物及關係書類カ發送前ナルトキ
二 引換代金ノ減額又ハ代金引換ノ取消ハ著驛ニ於テ荷物到着通知前ナルトキ又ハ荷受人カ引取

ヲ拒ミタルトキ
第十條 荷送人カ代金引換荷物ノ運送中止返還又ハ著驛若ハ荷受人ノ變更ヲ爲サントスルトキハ小荷物切符又ハ貨物通知書及代金引換證ヲ提出シ之ヲ發驛ニ請求スルモノトス
第十一條 代金引換ニ關スル手数料ハ左ノ通トス但シ特ニ費用ヲ要スルトキハ荷送人ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス

- 一 代金引換手数料
 - 代金二十圓迄 金八錢
 - 同 三十圓迄 金十錢
 - 同 五十圓迄 金十五錢
 - 同 百圓迄 金二十錢
 - 百圓以上百圓又ハ其ノ未滿ヲ増ス毎ニ 金五錢
 - 二 引換代金ノ増額、減額又ハ代金引換ノ取消手数料
 - 荷物及關係書類發送前ニ係ルトキ 一回ニ付 金五錢
 - 荷物及關係書類發送後ニ係ルトキ 一回ニ付 金十錢
- 代金増額ノ場合ニ於テハ前項第一號ニ依リ代金總額ニ對シ手数料ヲ計算シ其ノ差額ヲ別ニ收受ス

ルモノトス

第十二條 前條ノ手数料ハ申込ヲ受ケタル際之ヲ收受スルモノトス但シ運賃其ノ他ノ料金カ著拂扱ナルトキハ之ニ依ルコトヲ得

荷物代金引換取扱手續

四年一月 達第二〇號

荷物代金引換取扱手續左ノ通定メ大正四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 受託及發送

第一條 代金引換荷物ニ對シテハ荷物一口ニ付運送狀(小荷物扱ニ在リテハ貴重品ノ外運送狀ヲ要セス)一葉ヲ用フルモノトス

トス

第二條 代金引換荷物ニ對シテハ別ニ定ムル小荷物切符又ハ貨物通知書ヲ使用シ且代金引換證ヲ交付スルモノトス

第三條 引換代金額ヲ記スル數字ハ一、二、三、十ノ字ヲ用ヒスシテ壹、貳、參、拾ノ字ヲ用フルモノトス

第四條 代金引換荷物ニハ青色布片(貼付用ハ青色紙片)ヲ附スルモノトス

第五條

代金引換荷物到着通知

代金引換荷物到着通知

貴殿宛左記代金引換荷物到着致候ニ付金子御持參被下度本通知書到達後三日以内ニ御引換無之トキハ其以後ノ經過時間ニ對シ成規ノ保管料ヲ申受クヘク候
一 切符又ハ通知書月日 番號

一 品名箇數

一 金額(引換代金額)

一 運賃料金及立替金

一 荷送人住所氏名又ハ商號

一 發驛

第六條 代金引換荷物引渡ノ請求アリタルトキハ著拂金收入切符ヲ發行シ代金(著拂扱ノトキハ運賃料金立替金共)ヲ收入シタル上其ノ引渡又ハ配達ノ手續ヲ爲スヘシ但シ小荷物切符及貨物通知書甲片處理方ハ一般規定ニ依ルモノトス

第七條 著驛ニ於テ前條ニ依リ代金ヲ收入シタルトキハ代金引換證乙片相當欄ニ記入調印ノ上代金收入濟通知トシテ之ヲ發驛ニ返付シ同時ニ左ノ書式ニ依リ荷送人ニ通知スヘシ

代金引換濟通知書(郵便封書)

荷物代金引換取扱手續

何月何日何驛發行第 號代金引換證ニ對スル何ノ誰殿宛荷物引換致候就テハ同驛ヨリ引換代金支拂方御通知可致候間其節ハ代金引換證ニ本書ヲ添へ受取方御申出被下度候

注意 本書ハ引換代金受取ノ際必ス御提出ノコト

第八條 荷物代金引換規程第五條ノ期間内ニ荷物ノ受取方ヲ申出テサルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ引渡不能トナリタルトキハ著驛ハ其ノ旨ヲ發驛ニ通知シ發驛ハ更ニ之ヲ荷送人ニ通知シ五日以内ニ其ノ處分方ヲ申出テシムヘシ若其ノ期間内ニ何等ノ申出ナキトキハ所屬上長ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ

第三章 引換代金ノ支拂

第九條 發驛ニ於テ第七條ニ依ル代金引換證乙片ノ返付ヲ受ケタルトキハ左ノ書式ニ依リ引換代金ノ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ遲滯ナク荷送人ニ通知スヘシ

引換代金支拂通知書

何月何日當驛發行第 號代金引換證ニ對スル引換代金支拂可申候間該書及到着驛ヨリノ代金引換濟通知書御持參被下度候

第十條 荷送人ヨリ代金引換證甲片及第七條ニ依ル著驛ヨリノ通知書ヲ提出シ引換代金支拂ノ請求

キコトヲ確認シタル上代金引換證甲片相當欄ニ記名調印セシメ代金ノ支拂ヲ爲スヘシ

第十一條 荷物代金引換規程第八條ニ依ル荷送人ノ正當權利者タル證明方法ニ關シテハ管理局長ノ指揮ヲ受クヘシ

第四章 荷送人ノ指圖

第十二條 代金引換ノ追付取消又ハ引換代金ノ増額減額方請求アリタルトキハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ但シ荷物及關係書類發送後ナルトキハ電報ヲ以テ其ノ旨著驛ニ照會シ支障ナキコトヲ確メタル上其ノ手續ヲ爲スモノトス

一 運送狀記載方

荷送人ヲシテ左ノ如ク記入シ其ノ加除シタル箇所ニ調印セシムルモノトス

(イ) 追付 引換代金記入欄下部餘白ニ「何月何日引換代金何圓追付」

(ロ) 増額又ハ減額 記入金額ニ抹線ヲ施シ其ノ下部餘白ニ「何月何日引換代金何圓ニ増額(又ハ減額)」

(ハ) 取消 記入金額ニ抹線ヲ施シ其ノ下部餘白ニ「何月何日代金引換取消」

係員ハ追付ニ在リテハ代金引換證番號ノ坐下部餘白ニ「代金引換證第何號」ト記入シ取消ニ在リテハ記入シアル番號ニ抹線ヲ施スモノトス

荷物代金引換取扱手續

二 代金引換證、小荷物切符又ハ貨物通知書處理方

甲 荷物及關係書發送前ナルトキ

(一) 代金引換證

(イ) 追付 代金引換證ヲ發行スルモノトス

(ロ) 増額又ハ減額 甲、乙、丙各片面指圖記入欄ニ「何月何日引換代金何圓ニ増額(又ハ減額)」ト記入驛印ヲ押捺シ又引換代金記入欄ニ「變」ト附記ノ上甲片ハ之ヲ荷送人ニ還付スルモノトス

(ハ) 取消 甲片ヲ回收シ各片ニ對シ廢紙ノ手續「廢」ト朱記シ原綴ニ貼付スルコト以下之ニ做フヲ爲スモノトス

(ニ) 追付「ト」記入スヘシ

(二) 切符又ハ通知書

(イ) 追付 既ニ交付シタル切符又ハ通知書甲片ヲ回收シ各片ニ對シ廢紙ノ手續ヲ爲シ代金引換ノ爲ニ別ニ定メアル切符又ハ通知書ヲ發行スルモノトス此ノ場合記事欄ニ「追付」ト記入スヘシ

(ロ) 増額又ハ減額 切符又ハ通知書各片面記入ノ引換代金額ニ抹線ヲ施シ其ノ下部ニ金額(増額ノ場合ニ於テ手數料ニ變更アリタルトキハ記載金額)ヲ記入認印シ記事欄ニ「抹線」ヲ施シ其ノ下部ニ代金總額ニ對スル手數料ヲ記入

(ハ) 取消

切符又ハ通知書甲片ヲ回收シ各片ニ對シ廢紙ノ手續ヲ爲シ新ニ代金引換ニアラサル切符又ハ通知書ヲ發行スルモノトス此ノ場合ニ於ケル手數料(還付ヲ要セザル代金引換手)ハ切符ニ在リテハ記事欄ニ通知書ニ在リテハ運賃ノ次罫ニ記入シ何レモ記事欄ニ其ノ事由ヲ記載スルモノトス

乙 荷物及關係書類發送後ナルトキ

代金引換變更通告書ヲ發行シ減額又ハ取消ニ關スル手數料ヲ收受シ關係書類ハ左ノ通處理スルモノトス

(一) 代金引換證

(イ) 減額 甲、丙片指圖記入欄ニ「何月何日引換代金何圓ニ減額、通告書第何號發行」ト記入驛印ヲ押捺シ又引換代金記入欄ニ「變」ト附記ノ上甲片ハ之ヲ荷送人ニ還付ス

ルモノトス此ノ場合ニ於テ著驛ハ受ケタル通告書ニ依リ乙片指圖記入欄ニ「通告書第何號ニ依リ引換代金何圓ニ減額」ト記入認印スルモノトス

(ロ) 取消 甲片ヲ回收シ甲、丙片指圖記入欄ニ「何月何日取消、通告書第何號發行」ト記入認印ノ上甲片ハ之ヲ原綴ニ貼付シ置クモノトス此ノ場合ニ於テ著驛ハ受ケタル

荷物代金引換取扱手續

通告書ニ依リ乙片指圖記入欄ニ「通告書第何號ニ依リ取消」ト記入認印ノ上其ノ驛ニ保存スルモノトス

(二) 代金引換用ノ切符又ハ通知書

(イ) 減額 甲片及控片記事欄ニ「何月何日引換代金何圓ニ減額、通告書第何號發行」ト記入認印ノ上甲片ハ之ヲ荷送人ニ還付スルモノトス此ノ場合ニ於テ著驛ハ受ケタル通告書ニ依リ關係切符又ハ通知書餘白ニ「通告書第何號ニ依リ引換代金何圓ニ減額」ト記入認印スルモノトス

(ロ) 取消 甲片及控片ノ代金引換ニ關スル記入事項全部ヲ抹消シ記事欄ニ「何月何日代金引換取消、通告書第何號發行」ト記入認印ノ上甲片ハ之ヲ荷送人ニ還付スルモノトス此ノ場合ニ於テ著驛ハ受ケタル通告書ニ依リ關係切符又ハ通知書餘白ニ「通告書第何號ニ依リ引換代金取消」ト記入認印スルモノトス

第十三條 代金引換荷物ノ運送中止(發送前ノ運送) 返還又ハ著驛若ハ荷受人ノ變更方請求アリタルトキハ代金引換變更通知書ヲ發行シ之ニ關スル手数料及運送變更ニ對スル運賃ヲ收受又ハ拂戻ノ手續ヲ爲シ關係書類ハ左ノ通處理スルモノトス

荷送人ヲシテ左ノ如ク上部餘白ニ記入セシメ其ノ箇所ニ調印セシムルモノトス

(イ) 中止 「何月何日運送中止請求」

(ロ) 返還 「何月何日荷物返還請求」

(ハ) 著驛若ハ荷受人ノ變更 「何月何日何驛著(又ハ荷受人何ノ誰)ニ變更請求」

二 代金引換證

(イ) 返還 甲片ヲ回收シ甲、丙片指圖記入欄ニ「何月何日返還、通告書第何號發行」ト記入認印ノ上甲片ハ之ヲ原綴ニ貼付シ置クモノトス此ノ場合ニ於テ著驛ハ受ケタル通告書ニ依リ乙片指圖記入欄ニ「通告書第何號ニ依リ返還」ト記入認印ノ上其ノ驛ニ保存スルモノトス

(ロ) 運送ノ中止及著驛若ハ荷受人ノ變更

(甲) 荷物及關係書類發送前ナルトキ 運送ノ中止ニ就テハ甲片ヲ回收シ各片ニ對シ廢紙ノ手續ヲ爲シ著驛若ハ荷受人ノ變更ニ就テハ甲、乙、丙各片面著驛名又ハ荷受人名ニ抹線ヲ施シ其ノ下部ニ變更驛名又ハ荷受人名ヲ記載認印シ又指圖記入欄ニ「何月何日何驛(又ハ荷受人何ノ誰)ニ變更ス」ト記入認印ヲ押捺シ甲片ハ之ヲ荷送人ニ還付スルモノトス

荷物代金引換取扱手續

ノトス

(乙) 荷物及關係書類發送後ナルトキ

(甲)ニ準シ甲片及丙片面ニ相當ノ記入ヲ爲シ甲片ハ之ヲ荷送人ニ還付スルモノトス此ノ場合ニ於テ原著驛ハ受ケタル證書乙片指圖記入欄ニ「通告書第何號ニ依リ何驛(又ハ荷受人何ノ誰)ニ變更(又ハ中止)」ト記入認印シ中止及著驛變更ノ場合ハ之ヲ新著驛ニ回付スルモノトス

三 代金引換用切符又ハ通知書

(イ) 返還 甲片及控片記事欄ニ「何月何日返還申込、通告書第何號發行」ト記入認印ノ上甲片ハ之ヲ荷送人ニ還付スルモノトス此ノ場合ニ於テ荷物所在驛又ハ著驛ハ受ケタル通告書ニ依リ關係切符又ハ通知書餘白ニ「通告書第何號ニ依リ何驛ヨリ返還」ト記入シ荷物所在驛ニアリテハ原著驛ニ回付シ原著驛ニアリテハ該切符又ハ通告書ハ現、著拂扱トモ凡テ之ヲ主管調査ニ提出スルモノトス

(甲) 荷物及關係書類發送前ナルトキ

更ニ就テハ各片面著驛名又ハ荷受人名ニ抹線ヲ施シ其ノ下部ニ變更驛名又ハ荷受人名ヲ記入認印シ記事欄ニ「何月何日何驛(又ハ荷受人何ノ誰)ニ變更ス通告書第何號發行」ト記入甲片ハ之ヲ荷送人ニ還付スルモノトス

(乙) 荷物及關係書類發送後ナルトキ

(甲)ニ準シ甲片及控片ニ相當記入ヲ爲シ甲片ハ之ヲ荷送人ニ還付スルモノトス此ノ場合ニ於テ荷物所在驛又ハ原著驛ハ受ケタル關係切符又ハ通知書餘白ニ「通告書第何號ニ依リ何驛ニテ中止(又ハ何驛ヨリ何驛ニ變更)(又ハ荷送人何ノ誰ニ變更)」ト記入認印シ荷物所在驛ニ在リテハ之ヲ原著驛ニ回付シ原著驛ニ於テ其ノ切符又ハ通知書ハ現、著拂扱トモ凡テ之ヲ主管調査ニ提出スルモノトス

第十四條 代金引換ノ追付又ハ取消、引換代金額ノ増減ト代金引換荷物ノ運送中止、返還、著驛若ハ荷受人ノ變更トヲ同時ニ請求アリタルトキハ代金引換變更通告書一葉ヲ發行シ處理スルモノトス

連帶運輸取扱手續 大正元年九月 改三 達第一五五號 正 達第四三九號 年

連帶運輸取扱手續左ノ通改正シ十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年七月達第三七八號ハ本達施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

連帶運輸取扱手續

連帶運輸取扱手續

第一條 當院線ト他ノ鐵道、軌道線トノ連帶運輸ハ別段ノ定メアル場合ヲ除キ本手續ニ依リ取扱フヘシ

第二條 乗車券ハ各線(各鐵道、軌道線ヲ云フ以下同シ)同一等級ニ連絡スルモノトス但シ特等ハ二等、並等ハ三等ト看做ス

第三條 連絡乗車券ノ通用期限ハ各線ノ哩程ヲ通算シ院所定ニ依ル

第四條 小兒ノ無賃及半賃運送年齢竝手荷物無賃運送斤量ハ院所定ニ依ル

第五條 旅客運賃ハ各自所定ニ依リ大貨物運賃、手荷物運賃、小荷物運賃、郵便物運賃、増賃金ハ院所定ニ依ル

第五條ノ二 明治三十九年遞信省告示第四三二號ニ依ル官用旅客運賃、小荷物運賃、大貨物運賃ハ院社線共半減ス

第六條 旅客運賃割引ノ場合ハ各線各別ニ計算シ厘位以下ハ錢位ニ切上ケ併算收入スルモノトス但シ小兒(割引ノ有無ニ拘ラス)及官用賃金ハ各線大人賃金ノ併算額ヲ折半シ厘位以下ハ錢位ニ切上ケ收入ス

第七條 手荷物運賃、小荷物運賃、郵便物運賃、速達便扱貨物運賃、増賃金ハ各線ノ哩程ヲ通算シタル

モノニ依リ算出スルモノトス

第八條 速達便扱貨物以外ノ大貨物運賃ハ各線各別ニ算出シ厘位以下ハ錢位ニ切上ケ併算收入スルモノトス

但シ其併算額カ最低運賃ニ滿タサルトキハ最低運賃ヲ收入スルモノトス

第九條 荷物運賃收入上哩程ニ端數ヲ存スルモノハ各線各別ニ一哩ニ切上ク

第十條 大貨物ノ増賃金及最低運賃各線收入額分割方ハ左ノ通トス

一、二線連帶ノ場合ハ各線ノ哩程(各端數ハ一哩ニ切上ク以下同シ)ニ依リ分割シ厘位以下ヲ生スルトキハ發線ノ方ニ切上ク

二、三線連帶ノ場合ハ發線哩程ト通過線及到着線ノ哩程ヲ合算シタルモノニ依リ分割シ厘位以下ヲ生スルトキハ發線ノ方ニ切上ケ發線ノ收入額ヲ確定シタル後之ヲ全收入額ヨリ控除シ其殘額ヲ更ニ通過線及到着線ノ各哩程ニ依リ分割シ厘位以下ヲ生スルトキハ到着線ノ方ニ切上ク

三、前二號ニ依リ各線收入額分割上一線ノ收入一錢ニ滿タサルトキハ之ヲ一錢ニ切上ケ相對線ノ厘位ハ之ヲ切捨ツ

第十一條 發驛、所ニ於テハ速達便扱貨物以外ノ大貨物運賃竝同増賃金ハ第八條及第十條ニ依リ貨物通知書面ニ各線收入額ヲ分割記載スルモノトス

連帶運輸取扱手續

第十二條 大貨物運賃割引ノ場合ハ各線各別ニ普通貨率ヲ以テ計算シタル運賃ヨリ各其ノ割合ヲ控除シ厘位以下ハ錢位ニ切上クルモノトス

第十三條 院線ト院線トノ間ニ他線ヲ經由スル場合ハ各院線ヲ別線ト看做シ其ノ取扱方及運賃計算方ハ三線連帶ノ方法ニ依ル但シ成田、東武鐵道會社線ヲ經由スル貨物ニ限り兩院線哩程ハ各別ニ切上クルモ運賃ハ通算スルモノトス

連帶車輛料金並運用ニ關スル件

明治三十五年四月
鐵運乙第三九七號

當局ハ本月一日連絡鐵道會社ト連帶運輸契約ヲ改正シタリ今該契約中車輛ノ料金ニ關スル條項並ニ其運用上特ニ注意ヲ要スヘキ事項ヲ列舉スルコト左ノ如シ之カ運用ノ任ニ在ルモノハ各條項ヲ稽查シ運用上寸毫ノ遺憾ナキコトヲ期スヘシ

第一章 車輛料金

第一條 客車貨車使用料ハ左ノ通りトス

一 客車一車一哩ニ付金貳錢

「ボギー」ハ二倍トス

一 貨車一車一哩ニ付金壹錢五厘

「ボギー」ハ二倍トス

第二條 終著驛ニ於テ他線所屬ノ客車貨車ヲ其所屬線ニ向ケ返送セス更ニ他ノ方向ヘ運用スルトキハ其運用往復哩程ニ對スル反對使用料ハ左ノ通りトス

一 客車一車一哩ニ付金四錢

「ボギー」ハ二倍トス

一 貨車一車一哩ニ付金參錢

「ボギー」ハ二倍トス

第三條 客車貨車遲滯料ハ一車一日ニ付左ノ通りトス
客車類

一等車

金四圓五拾錢

二等車

金參圓七拾五錢

三等車

金參圓

一、二等合造車

金四圓五拾錢

二、三等合造車

金參圓七拾五錢

一、二等合造「ボギー」車

金九圓

連帶車輛料金並運用ニ關スル件

三等「ブレイキ」合造車 金參圓
 緩急車 金參圓
 馬運車 金參圓
 郵便車 金參圓

但シ此他「ボギー」車ハ二倍トス

貨車類

貨物緩急車
 有蓋貨車 金壹圓貳拾錢
 無蓋貨車
 油槽車
 馬車運送車

但シ「ボギー」車ハ二倍トス

第二章 車輛料金計算

第四條 旅客又ハ貨物ヲ搭載セル客車又ハ貨車ニシテ他線ニ入りタルトキハ他線ハ其所屬哩程ニ對

スル旅客及貨物運賃ヲ取得シ規定ノ使用料ヲ車輛所有者ニ仕拂フモノトス
 第五條 客車及貨物緩急車ハ空車ナルト否トニ拘ラス往復共使用料ヲ仕拂ヒ貨車ハ貨物積載ノトキ

ノミ使用料ヲ仕拂フモノトス
 但シ貨車反對使用ノ場合ニハ積空ヲ問ハス使用料ヲ仕拂フモノトス

(注意)貨車ハ貨物ヲ積載セハ其積載數量カ二噸以上ナルトキハ使用料ヲ仕拂フヘキモノナルヲ
 以テ會社車輛返送ノ場合ニ於テ縱令其返送線ニ至ル貨物アルトモ其貨物數量カ極メテ少量ナ
 ルトキハ先ツ仕拂フヘキ貨車使用料ト收入スヘキ貨物運賃トヲ比較計算スルハ最モ肝要ノ事
 ニ屬ス

第六條 客車貨車ノ遲滯料ハ其往復左記ノ日數ヲ超過スル場合ニ仕拂フモノニシテ其計算方ハ「ジ
 ヨンクシヨン」ノ著時刻ヲ以テス

客車往復日數
 五十哩迄 一日間
 五十一哩以上百哩迄 二日間
 以上百哩未滿若クハ百哩毎ニ二日間ヲ加フ
 貨車往復日數
 二十五哩迄 二日間

連帶車輛料金並運用ニ關スル件

二十六哩以上五十哩迄 三日間

五十一哩以上百哩迄 四日間

以上百哩未滿若クハ百哩毎ニ二日間ヲ加フ

片道計算ヲナス場合ニ於テハ其片道哩程ヲ往復延哩程ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

制限日數中貨車類ニ就テハ從來多ク五十哩往復ヲ以テ最小限トナセシモ今回更ニ二十五哩往復

ノ一項ヲ設ケシヲ以テ車輛ノ出入頻繁ナル驛ニ於テハ其返送ニ慎重ナル注意ヲ用ヒ徒ニ遲滯料

ヲ仕拂ノカ如キ失態ヲ演出セサルコトヲ期スヘシ

片道計算ヲナスハ特ニ通達アリシ場合ニ限ルモノナリ

第七條 一日ハ二十四時間ヲ以テ計算シ一日未滿ニシテ六時間以上ハ一日分トシ其未滿ハ半日分トス

第八條 車輛ニ係ル計算哩ハ實哩ニヨリ若シ分數ヲ存スルトキハ各別ニ一哩ニ切上クルモノトス

第九條 貨車ノ使用料ハ貨物積載噸數ニ噸未滿ナルトキハ之ヲ計算セス

(注意)現ニ二噸未滿ノ貨物ヲ積載スルニハ一車ヲ使用セサルコトトナリ居ルモ若シ會社ヨリ積載

シ來リシ場合ハ直ニ届出ヲ要ス
ラレタル正當ノ理由ニ依ルモノナルトキハ該車輛ニ對シテハ遲滯料ノ計算ヲナササルモノトス

第十一條 到着客貨車ハ最初通過シ來リシ線路ニ依リ其所屬線へ返送スヘキモノトス

但シ其所屬へ達スヘキ他ノ短距離線路アルトキハ之レニヨリ返送スルヲ得ルモノトス

第十二條 甲線ヨリ乙線ニ到着シタル客貨車ヲ乙線ニ於テ反對方向ナル他線へ使用シタルトキハ乙線ハ他線内ニ使用シタル到着驛迄ノ哩程ニ對シ反對使用料ヲ他線ハ別ニ普通使用料ヲ車輛所有者へ仕拂フモノトス

乙線ニ於テ甲線所屬ノ客貨車返送ノ際甲線ヲ通過シ更ニ他線内へ使用シタル場合亦同シ

第十三條 客貨車ノ返送線ニシテ最初來リシ線路ヨリ長距離ナルモ其所屬線へ直通返送シタルトキハ長短差哩ニ對シ反對使用料ヲ計算スルモノトス

第十四條 客貨車ニシテ最初來リシ線路若クハ短距離線路ニヨリ返送スル場合ニ其返送線路中ニアル分岐線内へ車輛所屬線へ到着スヘキ貨物積載ノ目的ヲ以テ使用シタルトキハ其分岐線内往復合計三十哩迄反對使用ノ計算ヲナササルモノトス

但シ三十哩ヲ超エテ使用シタル場合ハ分岐線内ニ於ケル往復哩程全部ヲ反對使用ト看做ス

鐵道軍事供用令ニ依ル旅客荷物連帶輸送ノ場合料金

收入方ノ件 元年八月 達第五二號

水戸、上武、川越、青梅、駿豆電氣、豐川、尾西、近江、河南、中國、島原ノ各鐵道會社線及千葉縣營線ト鐵道軍事供用令ニ依ル旅客荷物連帶輸送ノ場合ニ於ケル料金收入方左ノ通定メ本月十五日ヨリ之ヲ施行ス

- 一、院線内ハ鐵道軍事供用令ニ依ル
- 一、社線又ハ縣線内ハ客車ハ一輛ニ付其定員數ニ當該客車等級ノ運賃ヲ乘シタルモノノ二分ノ一、貨車ハ貸切料金ノ二分ノ一トス
- 一、院社線又ハ院縣線全輸送哩程カ二十哩ニ滿タサルトキハ各線哩程(各端數ヲ切上ケタルモノ)ニ依リ二十哩ヲ按分(端數ハ發線ニ切上)シ其哩程ニ對シ前二號ノ料金ヲ收入ス

(備考) 元年八月廿六日公報注意

本月達第五一號水戸外十一鐵道トノ軍事供用令ニ依ル客貨連帶ニ就テハ左ノ各號注意ヲ要ス

一 同達ニ依ル貨物受託ノ際ハ鐵道軍用輸送券ニ貨物品種數量等賃金計算上必要ナル事項ヲ記載

一 同達第三號ニ依リ收入スヘキ各哩當リ社、縣線旅客賃金別表ノ通トス(別表略)

一 同達施行ノ結果明治四十三年三月十日公報注意鐵道軍事供用令ニ依ル最低運賃分配ノ件ハ成田、東武、中越、南海、博多灣鐵道ト連帶ノ場合ニ限り適用サルルモノトス

連絡運送ノ場合鐵道軍事共用令ニ依ル最低運賃

分配ノ件 四十三年三月十日 公報注意

左記ノ通鐵道會社院線間連絡運送ノ場合鐵道軍事供用令ニ依ル最低二十哩分ノ運賃分配ニ付協定アリタリ

一 協定会社名

成田、東武、中越、南海、博多灣鐵道會社

二 分配方法

各線ノ運送哩程ニ依リ錢位迄按分計算シ其結果端數一錢ナルトキハ發線ノ方ヘ切上二錢ナルトキハ發著兩線ヘ切上ルモノトス

連帶線ニ於ケル手荷物配達方ノ件 大正元年八月 達第一七號

連帶線ニ於ケル手荷物配達方ノ件

連帶線ニシテ手荷物ノ配達ヲ爲スヘキモノハ左ノ通ニ付連帶輸送ノ場合ハ之ニ依リ取扱フヘシ但シ
配達賃ハ院所定ノモノニ同シ

明治四十二年十一月達第九七五號ハ之ヲ廢止ス

一、左記鐵道會社ニ於テハ各驛共配達ノ取扱ヲ爲ス

南海、河南、近江、川越、博多灣、伊豫、

二、左記鐵道會社ニ於テハ指定驛ニ限り配達ノ取扱ヲ爲ス

會社名

指定驛

豐川	吉田、小坂井、豐川、新城
中越	伏木
上武	寄居
青梅	青梅
東武	淺草

到著貨物立會監查手續

明治四十二年一月
達 第四〇號

到著貨物立會監查手續左ノ通相定メ來ル二月一日ヨリ實施ス

本達實施ト同時ニ之ニ關スル從前ノ諸達ハ消滅ト心得ヘシ

到著貨物立會監查手續

第一條 到著貨物立會監查(以下單ニ立會監查ト稱ス)ハ運送貨物ノ到著驛(貨物取扱店ヲ含ム以下
皆同シ)ニ於テ重量才積ノ超過、減失、減量、毀損、品名違及異種類混入其他規程違反者ノ有無ニ關
スル實查ヲ爲スモノトス但シ必要ナル場合ニ於テハ中繼驛ニ於テ行フコトアルヘシ

第二條 立會監查ハ一般貨物ト院用品トヲ問ハス貨切扱通常扱速達便扱ニ對シテ之ヲ行フモノトス

第三條 立會監查ハ左ノ二種トス

一、常時立會監查

二、臨時立會監查

第四條 當時立會監查ハ管理局及出張所ニ於テ適宜其所屬員ヲ立會セシメテ之ヲ行フモノトス

第五條 臨時立會監查ハ運輸部營業課員ヲ立會セシメテ行フモノトス

第六條 立會監查ノ監查人ハ當該驛長、主任又ハ之ニ代ル職責ヲ有スルモノニ限ル

第七條 立會監查ノ結果ハ左記様式ニヨリ立會人連署ノ上其都度所屬上長ヲ經テ運輸部長ニ報告ス

第八條 立會監查ノ際重大ナル事故又ハ急速處理ヲ要スル事件ヲ發見シタル場合ニ於テハ立會人ヨ

到著貨物立會監查手續

リ即時其所屬上長ニ電報シテ其指揮ヲ受ケ適宜ノ處置ヲナスヘシ
(左記様式省略)

二車ニ跨ル貨物積載車其他聯結手續

明治四十三年一月
達第一八號

改四五年
正達第三六四號

二車ニ跨ル貨物積載車其他聯結手續左ノ通り相定メ本月二十日ヨリ實施ス
左記諸達及本達ニ牴觸スル從來ノ諸達ハ本達施行ト同時ニ廢止ス

(左記略)

二車ニ跨ル貨物積載車其他聯結手續

第一條 列車運轉及信號取扱心得第十六條但書ニ依リ二車ニ跨ル貨物ヲ積載シタル貨車ヲ旅客又ハ

混合列車ニ聯結スルトキハ左記各項ニ依ルヘシ

一、永久的裝置ヲ施シタル貨車(完全ナル轉環枕木ヲ設ケアル)ハ次ノ各號ニ該當シタル場合ニ限
リ聯結スルコトヲ得

イ 旅客列車ニ聯結ノ場合ハ貨物列車及混合列車ナキ區間又混合列車ニアリテハ定期貨物列車

ハ 四十分一ヨリ急ナル勾配ナキ線路ナルコト

ハ 聯結位置左ノ通り

但列車ノ後部ニ該車ヲ聯結スルトキハ可成後部緩急車ニ接シテ聯結スヘシ

旅客列車及貨車ヲ後部ニ聯結スル混合列車ニアリテハ後部

貨車ヲ前部ニ聯結スル混合列車ニアリテハ可成機關車ニ接近シタル箇所

二、一時的裝置ヲ施シタル貨車ハ次ノ各號ニ該當シタル場合ニ於テ混用列車ニ限り聯結スルコト
ヲ得

イ 列車ノ速度カ一時間平均十八哩ヲ超ヘサルコト

ロ 定期貨物列車ナキ區間若クハ定期貨物列車ノ運轉セサル日ナルコト

ハ 六十分一ヨリ急ナル勾配ナキ線路ナルコト

ニ 聯結位置ハ客車ニ對シ四車以上ノ隔離車アルコト

ホ 局所長(管理局出張所長ヲ含ム)ノ指定シタル責任者ニ於テ車輛及荷積方ヲ檢查シタル證明
アルモノニ限ルコト

第二條 前條ニ依ル輸送區間ハ局所長ニ於テ査定スヘシ但旅客列車ニ聯結スル區間ハ豫メ認可ヲ受
クヘシ

二車ニ跨ル貨物積載其他聯結手續

第三條 二車以上ノ車輛ヲ連接シテ長尺ノ貨物ヲ搭載セントスルトキハ聯結器ハ豫メ充分検査シ且内方ノ聯結器ハ適度ニ締結スヘシ

第四條 列車運轉及信號取扱心得第十二條但書ニ依リ發火シ易キ貨物ヲ積載シタル貨車ヲ旅客又ハ混合列車ニテ輸送スルトキハ左記各項ニ依リ可成機關車ニ隔離シテ聯結スヘシ

一、油布、油紙、生石灰、炭化石灰、洋「マッチ」ハ全部鐵製有蓋貨車ニ積載シタルトキ

二、石油類ハ油槽車若クハ全部鐵製有蓋貨車ニ積載シタルトキ

三、罐入り箱詰若クハ罐入（漏洩ノ虞ナキ）ノ石油類、炭化石灰及安全「マッチ」ハ其區間ニ貨物列車ノ運轉セサル日ニ於テハ木製有蓋貨車ニ積載シタル場合ト雖モ晝間ニ限り之ヲ聯結スルコトヲ得

四、前各項以外ノ危險品ハ全部鐵製有蓋貨車又ハ内部鐵張有蓋貨車ニ積載シタルトキ

第五條 綿花、襪、木炭、藥、枯草等火ノ移リ易キ貨物ヲ無蓋貨車ニ積載シタルトキハ旅客又ハ混合列車ニ聯結スルコトヲ得ス但貨物列車ノ回數少ナキタメ輸送ニ困難ナル場合若クハ其區間ニ貨物列車ノ運轉ナキトキニ限り混合列車ニ聯結スルコトヲ得此場合ニ於テ該貨車ハ客車ニ對シ二輛以上ヲ隔テ且可成機關車ト隔離シテ聯結スヘシ

第六條 列車運轉及信號取扱心得第十八條ニ依リ毀損セル機關車及空貨車ヲ貨物列車ニ聯結スルコトハ左記各項ニ依ルヘシ

一、毀損機關車及空貨車ハ局所長ニ於テ指定シタル責任者ノ検査ヲ受ケ其證明アルニ非サレハ聯結スヘカラス但毀損空客車ニシテ検査ヲ爲シタル責任者カ毀損ノ程度稍大ナリト認メ其通告ヲ爲シタルトキハ該車輛ハ後部ニ補助機關車ヲ聯結シタル列車ニ聯結スルコトヲ得ス

二、毀損機關車ハ列車ノ本務機關車（前部ニ補助機關車ヲ聯結シタル場合ハ其次位）ニ隣接シテ聯結スヘシ

但シ線路ノ状態ニ依リ機關車二輛以上ノ重聯ヲ許ササル區間ナルトキハ局所長ニ於テ聯結位置ヲ指定スヘシ

三、毀損空客貨車ハ後部緩急車ノ前位ニ聯結スヘシ

事故調査並損害賠償規程

明治四十五年五月
達第五一八號

改四十五年二月
正達六五九號 達六五三七號

事故調査並損害賠償規程左ノ通定ム

事故調査並損害賠償規程

第一章 總 則

事故調査並損害賠償規程

第一條 本規程ニ於テ事故トハ不著、破損、減量、腐敗、動物斃死、汚損、雨濡、延著、火災、盜難、荷崩、落失、車票又ハ通知書ノ誤用誤記不明、貨車封印ノ異狀、品名相違、過積、混載、誤送、持越、誤著、紛著、扱違、驛名札誤貼、通知書切符チエツキ驛名札繪符等ノ不符合、引渡不能等ヲ謂フ

第二條 本規程ニ於テ驛トハ驛、荷扱所、市内營業所、荷客扱所、船舶課派出所ヲ總稱ス

第二章 事故報告及調査

第三條 事故ノ損害見積額五百圓以上ナルトキハ驛長ハ直ニ管理局長及總裁官房法規主任ニ電報スヘシ

沿線火災又ハ旅客死傷ニシテ重大ナリト認ムルトキ亦同シ

第四條 到着驛ニ於テ事故ヲ惹起シ若ハ發見シタルトキハ直ニ電報ヲ以テ關係ノ向ヲ取調ヘ貨物掛、小荷物掛等ノ當務者ハ第一號書式ノ報告書ヲ作成シ驛長ヲ經由シ報告スヘシ

第五條 前條ノ規定ハ發驛若ハ中繼驛係員、車掌又ハ船舶係員ニ於テ事故ヲ惹起シ又ハ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 管理局ニ於テ事故調査ヲ爲スニ方リ必要アルトキハ其所管外ノ驛ニ對シ左記事項ヲ照會スルコトヲ得

一 運送狀、通知書等ノ寫ノ運送

二 受託又ハ發送ノ年月日、列車、車輛ノ番號、取扱者ノ氏名等ノ通知

三 其他之ニ類スル簡單ナル事項ノ通知

第七條 管理局ニ於テ他管理局ニ對シ事故調査ノ照會ヲ爲スニハ自己所管線ニ運送セラレタル月日、列車番號、乗務員ノ氏名等調査材料タルヘキ事項ヲ照會書ニ記載スルコトヲ要ス但シ自己管内ノミノ取調ニ因リ知ルコト能ハサルモノハ此限ニ在ラス

第八條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スルモノハ他管理局ニ對シ事故調査ヲ求メス唯其旨ヲ關係管理局ニ通知スルニ止ムルコトヲ得但シ他鐵道又ハ他船舶ト連絡輸送シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 貨取扱又ハ一車積ノ荷物ノ濡損ニシテ貨車不長ニ基因セリト認メタルモノ

二 一車積ナルト緩急車積ナルトヲ問ハス運轉中ノ動搖又ハ積合荷物ノ爲ニ生シタリト認ムヘキ汚損、擦損、壓迫、其他ノ毀損

三 損害荷主負擔ノ特約アル無蓋車積荷物又ハ荷主ニ於テ荷造不完全ナルコトヲ認メタル荷物ニシテ其無蓋貨車積又ハ荷造不完全ナルニ因リ生シタル荷物ノ滅失、毀損

四 貨取扱貨物ノ箇數不足ナルモ貨車封印ノ完全ナリシモノ

五 増賃金ノ支拂ナキ貴重品ノ滅失、毀損又ハ延著

第九條 前條ノ通知ヲ受ケタル管理局ニ於テ該荷物ニ關シ特ニ荷主ニ對抗シ得ヘキ事由アリト認ム

ルトキハ遲滞ナク其事由ヲ通知スヘシ但必要アル時ハ關係書類ヲ送附スヘシ

第十條 發送又ハ中間管理局ニ於テ事故調査ヲ遂ケタル場合ニ其事故カ荷物ノ滅失、毀損又ハ著シク延著ヲ來スヘキモノト認メタルトキハ遲滞ナク調査シタル狀況及結果ヲ賠償事務主管管理局ニ通知スヘシ但シ必要アル時ハ關係書類ヲ送附スヘシ

第三章 證明書發行

第十一條 荷受人、貨物引換證所持人又ハ運送品ノ返還ヲ求ムル荷送人カ荷物取引ノ際荷物ノ重量又ハ狀態ニ關シ證明ヲ求メタルトキハ當該驛長ハ第二號書式ノ證明書ヲ作成シ交付スヘシ但シ引渡ノ際ニ請求セラレタルモノ一通ヲ除クノ外所屬上長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ交付スルコトヲ得ス

第四章 損害賠償

第十二條 荷物ニ關スル損害ノ賠償又ハ賠償事務ハ當該荷物ノ著驛ヲ主管スル管理局ニ於テ處理ス但シ當院線ヨリ發送セラル、荷物ニシテ未タ發驛主管管理局區域ヲ離レサル前ニ運送ヲ取消シタルモノノ賠償事務ハ發驛ヲ主管スル管理局ニ於テ處理ス

著驛カ當院所管外ナル時ハ當院所屬ノ最終中繼驛ヲ主管スル管理局ニ於テ處理ス

第十三條 沿線火災、車輛毀損、旅客死傷ノ損害賠償、慰謝金又ハ手當金ノ給與ハ原因發生ノ場所ヲ

主管スル管理局ニ於テ處理ス

車輛毀損ノ損害賠償ハ毀損車輛ノ引渡ヲ受ケタル管理局ニ於テ處理ス

第十四條 船舶ニ關スル損害賠償又ハ其要償ハ其船舶ヲ主管スル管理局ニ於テ處理ス

第十五條 損害賠償ノ請求ハ成ル可ク第三號書式ノ請求書ヲ以テ爲サシムヘシ

前項ノ請求書ニハ第四號書式ノ評價書第五號書式ノ品名目錄及交付ヲ受ケタル「チエツキ」、貨物引換證並證明書ヲ添附セシムヘシ、但シ品種カ多様ニ涉ラサル爲悉ク請求書ニ記入シタルモノハ品名目錄ヲ添附セシメサルコトヲ得

第十六條 荷物損害ノ賠償請求額五十圓ヲ超ヘサル場合ニ管理局長ニ於テ相當ナリト認メタルトキハ評價書ヲ省略スルコトヲ得

到著地附近ノ取引所ニ於テ取引所ノ物品又ハ一般ニ取引價額ノ顯著ナル物品ニ付價格全部ノ賠償ヲ爲スヘキ場合又同シ

第五章 雜 則

第十七條 管理局長ハ第六號並第七號書式ニ依リ毎月十五日迄ニ前月中ノ事故件數表、專決施行ノ賠償及見舞金等ニ關スル事件ノ報告書ヲ作成シ提出スヘシ

附 則

事故調査並損害賠償規程

第十八條 本規程ハ明治四十五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 左ノ達ハ之ヲ廢止ス

- 一 明治三十九年十二月鐵運乙第一六九六號貨物事故調査及報告手續
 - 二 明治四十年六月鐵運乙第四九七號貨物、小手荷物事故取扱手續
 - 三 明治四十一年五月達二五五號證明書發行規程
 - 四 明治三十九年八月鐵運乙第一二六七號煙草類證明ニ關スル件
 - 五 明治四十二年一月達第三九號損害賠償並慰藉ニ關スル規程
 - 六 明治四十一年十二月達第三五號損害貨物ノ事故電報報告方ノ件
 - 七 明治四十二年二月達第六七號二以上ノ管理局又ハ出張所線路ニ跨ル荷物事故取扱調方ノ件
- 第二十條 本規程施行ノ日以前ニ請求書ヲ受理シタル賠償事件ハ其處理濟ニ至ル迄從前ノ規定ニ依ル
- 第二十一條 從前ノ用紙ニシテ尙存スルモノハ其ノ存スル限り之ヲ用フ
- 第二十二條 管理局長ハ本規程ノ施行ニ必要ナル規則ヲ定ムヘシ

第 號
驛長
荷役所主任

(式書號一第)

局長		提出者職氏名	
貨物	事故報告書	四十	年 月 日提出
小手荷物	事故種別	發 著 驛	
品名數量	荷送人氏名	記 造 驛	
商號	商號	商 受 人 氏 名	
扱別、通知書、切符、日附及番號	發 生 又 ハ 發 見 ノ 月 日 場 所 及 列 車 番 號	貨 車 所 屬 種 類 及 番 號	
關 係 者 名	交 付 シ タ ル 證 明 書 ノ 月 日 番 號	天 候	
職 氏 名	月 日 號	賠 償 請 求 ノ 有 無	
荷 物	現 在 中 品 狀 況		
荷 造 異 狀	ノ 有 無		

事故調査並損害賠償規程

當時ノ處置及 其他ノ記事	事故原因	當務者責任ニ 關スル申立
-----------------	------	-----------------

(注意)

本書ハ必ス驛長若ハ荷扱所主任檢閲捺印スヘシ
 事故原因ハ成ル可ク詳細ニ記入シ推測シタル事柄ニ付テハ其基ク根據ヲ示スヘシ
 當務者責任ニ關スル申立 事故報告提出者カ事故ヲ惹起セシ當務者ナルトキニ限リ此記
 載ヲ要スルモノニシテ其目的ハ之ヲ以テ手續書ト兼用スル爲ナルニ依リ當務者ノ辯解等ニ
 關スル陳述ヲ掲クルモノトス

第 號	品名及 荷 造	送 出 數 量	現 在 數 量	證 明 書
	發送月 日 驛	到著月 日 驛	引渡 月 日	
通 知 番 號	取 扱 別	入 貨 種 金 別 收	車 種 及 番 號 列	列 車 號

(式書號二第)

右 證 明 候 也	引渡ノ 際ニ於 ケル貨 物ノ重 量若ク ハ状態	荷造異 狀ノ有 無	貨 金	通 知 番 號	取 扱 別	入 貨 種 金 別 收	車 種 及 番 號 列	列 車 號

事故調査並損害賠償規程

(注意)

證明書ハ公正嚴格タルヘシ
本書ハ荷物引渡當日ノ外發行ヲ禁ス通知書ニ記載シタル在中品ノ數量ハ必スシモ中味ヲ檢シタル上記入スルモノニ非サルヲ以テ現在品力其ノ記載數量ヨリ不足ナル場合ト雖モ之レノミヲ以テハ未タ在中品不足ノ證明ヲ爲スヘカラス其ノ他之ニ類スル不正確ナル事實ニ基キ證明ヲ爲スヲ禁ス專賣局所屬ノ其類ノ濡損ニ限りテハ解荷セス外部ノ狀態ニ付テ證明スヘシ

(備考) 本記事ハ驛ノ控分ノミニ記入シ置キ荷主ニハ此ノ記載ナキ分ヲ交付スヘシ

請求書

(式書號三第)

請求金額
託送年月日
發著驛名
通知書、切符、チエツキ番號
品名及數量
請求ノ原因

右損害賠償金及御請求候也

府縣

郡市 町村

番地

明治 年 月 日

(荷送人又ハ荷受人)

名印

鐵道院御中

評價書

(式書號四第)

品名	數量	品質產地新古ノ區別	損害ノ狀態	正當ニ引渡サルトキノ單價	荷傷品延著品ノ單價	損害總額

右評價ノ通りニ相違無之候也

明治 年 月 日

府縣 郡市 町村

番地

評價人 職業 氏

名印

鐵道院御中

(注意)

「正當ニ引渡サルトキノ單價」及「荷傷品延著品ノ單價」ハ孰レモ到著驛地方ノ左記日時ノ相場ニ依リテ評價スヘシ

事故調査並損害賠償規程

關稅法

第一章 關稅ノ賦課及徵收

第一條 輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル

第二條 輸入貨物損傷シタル爲減稅ヲ請フ者アルトキハ輸入免許前ニ限り相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第四條 關稅ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條 關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス

關稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第六條 擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シテ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條 關稅ノ徵收權ハ之ヲ行使シ得ル日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因テ消滅ス但シ脫進ヲ圖リ又ハ脫進シタル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 關稅ノ過誤納ニ因テ生スル請求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ

因テ消滅ス

第九條 前二條ノ期限内ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時効ヲ中斷ス

第二章 船 舶(略)

第三章 貨 物

第一節 總 則

第二十四條 貨物ハ開港ニ由ルノ外輸出若ハ輸入ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 遭難船舶ノ修繕救援若ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ

二 遭難船舶ニ積載セル損傷貨物若ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ

三 遭難船舶若ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四 遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第二十五條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ又ハ保稅地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受クヘシ但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス保稅地域内ニ於

テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦前項ニ同シ

第二十七條 保稅地域内ニ於ケル貨物ノ取扱ハ總テ稅關長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十八條 貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外稅關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘシ

外國貿易船ト沿海通航船トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ内國貨物トス

第二十九條ノ二 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ稅關構内、保稅倉庫、稅關假置場其ノ他法令ニ依リ

外國貨物ヲ藏置シ得ル地域ヲ謂フ

第三十條 貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス

第二節 輸出、輸入及積戻

第三十一條 貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ検査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ第二十四條但書ノ場合ニ於テハ稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ検査及免許ヲ受クルコトヲ得

第三十二條 輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セサルトキハ稅關ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十三條 (削除)

第三十四條 輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認許ヲ得税金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 第三十六條 (削除)

第三十七條 輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ積出スルコトヲ得ス

第二十八條 外國貨物ノ積戻ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ準用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第三節 運送

第三十九條 外國貨物ハ海路又ハ陸路ニ由リ開港間、保稅地域間又ハ開港ト保稅地域トノ間ニ之ヲ運送スルコトヲ得此場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ稅關ハ必要ト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三十九條ノ二 外國貨物ノ陸路ニ由ル運送ハ命令ヲ以テ定メタル通路ニ由ルヘシ

第三十九條ノ三 外國貨物相當ノ期間内ニ運送先ニ到達セサルトキハ運送申告者ヨリ關稅ヲ徵收ス

但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ税關ノ認可ヲ得テ滅却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條ノ四 外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ運途先ヲ異ニスル毎ニ運送目録ヲ税關ニ提出スヘシ

船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十九條ノ五 左ニ掲グル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保税地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ税關官吏、税關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認可ヲ受クヘシ但シ陸路運送ニ由ル運送ハ税關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ルヘシ

一 假ニ陸揚シタル貨物

二 運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物

三 難破貨物

前項ノ貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以内ニ認可證ヲ税關ニ提出スヘシ

第四十條 內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ税關ニ申告シ其免許ヲ受クヘシ

第四十一條 第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目録ヲ税關ニ提出スヘシ

第四節 郵便物(略)

第五節 收容

第四十六條 保税倉庫又ハ税關假置場ヲ除クノ外保税地域ニ搬入シタル貨物ヲ搬入ノ日ヨリ七日以内ニ其ノ保税地域ヨリ搬出シ又ハ保税倉庫ニ庫入若ハ税關假置場ニ移入セサルトキハ税關ハ其貨物ヲ收容スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ税關ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セス

前項ノ貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ又腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前項ノ期間内ト雖之ヲ收容スルコトヲ得

第四十七條 貨物ヲ收容シタルトキハ三日以内ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條 貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ税關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第四十九條 前條ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ貨物ヲ保税地域ヨリ搬出シ又ハ保税倉庫ニ庫入若ハ税關假置場ニ移入セサルトキハ税關ハ更ニ第四十六條ノ收容ヲ爲スコトヲ得

第五十條 貨物收容ノ日ヨリ六箇月以内ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ税關ハ其ノ記號、番號、種類、箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以内ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ公賣ニ付シ關稅、
敷料其ノ他ノ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ貨主ニ交付ス

第五十一條 收容貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ又腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ
他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣ニ付スルコトヲ得但シ公
告スルノ暇ナキトキハ公賣シタル後之ヲ公告スヘシ

第五十二條 收容貨物ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章 稅關官吏ノ職權

第五十三條 稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止ス
ルコトヲ得

第五十四條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條 稅關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條 稅關官吏ハ船車ニ乗込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ検査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置
場ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條 稅關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求めルコトヲ得

第六十條 前號ノ請求アリタルトキハ海軍艦船長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍艦船長ハ其ノ船舶ニ對シテ兵力ヲ用ウル
コトヲ得

第五章 異議及訴願(略)

第六章 罰 則

第七十四條 輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當ス
ル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在
ラス

第七十五條 關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三
倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

第七十五條ノ二 前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以
下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條 免許ヲ受ケスシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金
又ハ科料ニ處ス但シ第七十四條又ハ第七十五條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 貨物ト符合セサル積荷目録又ハ運送目録ヲ提出シタルトキハ船長又ハ陸地運送人ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十條 第十條、第十三條、第十八條第二項、第二十一條、第三十九條ノ四第一項、第三十九條ノ五又ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十一條 第二十六條乃至第二十八條、第三十九條第一項、第三十九條ノ二又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十二條 第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十二條ノ四 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第八十三條 本法ニ依リ沒收スヘキ貨物カ犯則者以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其他ノ事由ニ因リ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヨリ關稅及消費稅ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ犯則者ヨリ追徴ス

第八十二條ノ二ノ營業者及稅關貨物取扱人ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ犯則者トス
所有者ノ占有ニ歸セサル間ニ滅失シ又ハ第三者ニ歸屬シタルトキハ犯則者ヨリ之ヲ徵收ス但シ貨物カ前項ノ規定ニ依ル關稅ノ徵收ニ付テハ國稅徵收法ヲ準用ス

第七章 犯則事件ノ調査及處分

第八十四條 稅關官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 稅關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 稅關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條 稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ著用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帯スヘシ

第八十八條 稅關官吏ハ臨檢搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第九十條 稅關官吏ハ犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思

料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目録ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ税關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第九十一條 臨檢搜索及物件差押ハ日没ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得ス但現行犯ノ場合ハ此ノ

限リニ在ラス

既ニ開始シタル臨檢搜索又ハ物件差押ハ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ繼續スル

コトヲ得

第九十二條 税關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入ス

ルヲ禁スルコトヲ得

第九十五條 犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間内

ニ履行セサルトキハ税關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第九十七條 税關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキ

ハ直ニ告發スヘシ

第八章 補則

日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ曆ニ從フ

第一百號 本法ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第一百二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百三條 明治十六年布告第四十號、特別輸出携規則、同二十三年勅令第五十四號、税關法、税關規則

同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號、同年法律第三號、同二十九年法律第十八號其ノ

他本法ニ牴觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

關稅法施行期日ノ件

明治三十二年六月三十日
勅令第三一七號

關稅法ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

關稅法ニ依ル通路ノ件

明治四十四年六月
大藏省令第二九號

改正
第四十四年 第四十五年 三 四年
第四〇號 第一四號 第二三號 第十號

關稅法第三十九條ノ二ノ通路左ノ通之ヲ定ム

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

關稅法ニ依ル通路ノ件

東京 室蘭間

東京若ハ汐留ヨリ品川、大崎、池袋、赤羽、大宮、小山、福島ヲ經又ハ品川、大崎、池袋若ハ赤羽、田端、北千住、友部、岩沼ヲ經テ青森ニ至ル鐵道線路、青森港ヨリ函館港ニ至ル直航水路及函館ヨリ室蘭ニ至ル鐵道線路、
但シ東京若ハ汐留ヨリ青森ニ至ル兩通路ハ小山友部間又ハ福島岩沼間ノ鐵道線路ニ依リ相互連絡スルコトヲ得

東京 新潟間

東京若ハ汐留ヨリ品川、大崎、池袋、赤羽、大宮、高崎ヲ經又ハ品川、大崎、新宿、八王子、鹽尻ヲ經テ新潟ニ至ル鐵道線路

東京 名古屋間

東京若ハ汐留ヨリ、大森、東神奈川、神奈川若ハ横濱ヲ經又ハ品川、大崎、新宿、八王子、鹽尻ヲ經テ名古屋若ハ名古屋港ニ至ル鐵道線路

横濱 青森間

横濱ヨリ神奈川、大崎、池袋、赤羽、大宮、小山、福島ヲ經又ハ神奈川、大崎、池袋若ハ赤羽、田端、北千住、友部、岩沼ヲ經テ青森ニ至ル鐵道線路
但シ該兩通路ハ小山友部間又ハ福島岩沼間ノ鐵道線路ニ由リ由リ相互連絡スルコトヲ得

横濱 新潟間

横濱ヨリ神奈川、東神奈川、八王子、鹽尻ヲ經又ハ神奈川、大崎、池袋、赤羽、大宮、高崎ヲ經テ新潟ニ至ル鐵道線路
但シ該兩通路ハ新宿八王子間ノ鐵道線路ニ由リ相互連絡スルコトヲ得

名古屋 青森間

名古屋若ハ名古屋港ヨリ鹽尻、篠ノ井ヲ經テ新潟ニ至ル鐵道線路
但シ該兩通路ハ赤羽、田端、北千住、友部、岩沼ヲ經テ青森ニ至ル鐵道線路
由リ相互連絡スルコトヲ得

名古屋 新潟間

名古屋若ハ名古屋港ヨリ鹽尻、篠ノ井ヲ經テ新潟ニ至ル鐵道線路

名古屋 敦賀間

名古屋若ハ名古屋港ヨリ米原ヲ經テ金ヶ崎若ハ敦賀ニ至ル鐵道線路

名古屋 大阪間

名古屋若ハ名古屋港ヨリ草津、京都ヲ經又ハ柘植、木津、天王寺若ハ放出ヲ經テ大阪、櫻島若ハ湊町ニ至ル鐵道線路
但シ該兩通路ハ草津柘植間又ハ京都木津間ノ鐵道線路ニ由リ相互連絡スルコトヲ得

敦賀 矢田新間

敦賀若ハ金ヶ崎ヨリ金澤津幡ヲ經テ矢田新ニ至ル鐵道線路

大阪 敦賀間

大阪若ハ櫻島ヨリ京都、馬場、草津、米原ヲ經テ金ヶ崎若ハ敦賀ニ至ル鐵道線路

大阪 神戸間

大阪若ハ櫻島ヨリ神崎ヲ經テ神戸、小野濱若ハ和田岬ニ至ル鐵道線路

大阪 宮津間

大阪若ハ櫻島ヨリ京都ヲ經又ハ神崎ヲ經テ海舞鶴ニ至ル鐵道線路及舞鶴港ヨリ宮津港ニ至ル直航水路

神戸 宮津間

神戸、小野濱若ハ和田岬ヨリ神崎、綾部ヲ經又ハ神崎、大阪、京都ヲ經テ海舞鶴ニ至ル鐵道及舞鶴港ニ至ル直航水路

神戸 下關間

神戸、小野濱若ハ和田岬ヨリ下關ニ至ル鐵道線路

下關 長崎間

下關港ヨリ小森江ニ至ル直航水路及小森江ヨリ小倉、折尾ヲ經テ長崎ニ至ル鐵道線路

關稅法ニ依ル通路ノ件

下關 唐津間 下關港ヨリ小森江ニ至ル直航水路及小森江ヨリ小倉、折尾ヲ經テ西唐津ニ至

ル鐵道線路

門司 長崎間 門司ヨリ小倉、折尾ヲ經テ長崎ニ至ル鐵道線路

門司 唐津間 門司ヨリ小倉、折尾ヲ經テ西唐津ニ至ル鐵道線路

唐津 長崎間 西唐津ヨリ長崎ニ至ル鐵道線路

税關出張所、税關支署出張所設置ノ件

明治四十四年六月
大藏省令第二八號

改二年三月
正第三二號 第二五號

左ノ各地ニ税關出張所又ハ税關支署出張所ヲ設置ス
本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

神奈川縣横濱市横濱驛停車場構内

横濱税關横濱驛出張所

東京府東京市汐留驛停車場構内

東京税關支署汐留驛出張所

兵庫縣神戸市神戸驛停車場構内

神戸税關神戸驛出張所

大阪府大阪市西區三條通

大阪税關築港出張所

大阪府大阪市西區櫻島町

大阪税關櫻島出張所

大阪府大阪市大阪驛停車場構内

大阪税關大阪驛出張所

愛知縣名古屋市名古屋驛停車場構内

名古屋税關支署名古屋驛出張所

福井縣敦賀郡金ヶ崎驛構内

敦賀税關支署金ヶ崎驛出張所

山口縣下關市中ノ町

門司税關下關出張所

山口縣下關市下關驛停車場構内

門司税關下關驛出張所

關稅定率法

明治四十三年四月十四日
法律第五四號

(拔萃)

第一條 外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課ス

第七條 左ノ物品ニハ輸入稅ヲ免ス

一 御料品

二 本邦ニ來遊スル外國ノ元首及其ノ一族並其ノ從者ニ屬スル物品

三 陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器、彈藥及爆發物

四 陸海軍ニ於テ燃料トシテ輸入スル原油以外ノ礦油ニシテ攝氏十五度ニ於ケル比重〇、七八五

ヲ超エタルモノ

五 軍艦

- 六 本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使又ハ公使ニ屬スル自用品並在本邦外國大使館又ハ公使館ニ屬スル用品
 - 七 本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品及本邦領事館ニ屬スル公用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ本邦領事館ニ屬スル公用品
 - 八 本邦在住者ニ贈與スル勳章、賞牌及記章
 - 九 記錄文書其ノ他ノ書類
 - 十 官立ノ學校、博物館、物品陳列所其ノ他ノ營造物及私立ノ專門學校ニ陳列スル標本又ハ參考品トシテ輸入スル物品
 - 十一 慈善又ハ救恤ノ爲ニ寄贈シタル物品
 - 十二 政府ノ輸入ニ係ル政府ノ專賣品
 - 十三 商品ノ見本但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル
 - 十四 旅店ノ用品及旅店ノ職業上必要ナル器具但シ旅客ノ身分ニ相當スルモノニシテ稅關力適當ト認メタルモノニ限ル
 - 十五 在外軍隊及軍艦ヨリ送還シタル物品
 - 十六 輸入ニ屬スル引越荷物但シ既ニ使用セラレタルモノニ限ル
 - 十七 輸出シタル物品ニシテ五年以内ニ輸入セラレ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ但シ酒精、酒類、砂糖及第八條又ハ第九條ニ依リ輸入稅ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク
 - 十八 命令ヲ以テ指定シタル輸出貨物ノ容器ニシテ再輸入スルモノ
 - 十九 本邦ヨリ出漁セル船舶ヲ以テ捕獲採取シタル魚介類、海獸、海藻其ノ他ノ水產物及其ノ製品ニシテ工程ノ簡單ナルモノ但シ當該船舶又ハ之ニ附屬セル船舶ヲ以テ輸入スルモノニ限ル
 - 二十 外國航行ノ艦船ニ船用ノ爲開港内ニ於テ引渡ス物品
 - 二十一 難破シタル本邦船舶ノ解體材及艤裝品
 - 二十二 本邦ヨリ出港シタル船舶ニ搭載シタル輸出貨物ニシテ該船舶難破シタル爲積戻リタルモノ
 - 二十三 國、道、府縣ノ輸入スル種馬、種牛、種豚、種羊及種禽並產牛馬組合、產馬組合又ハ產牛組合ノ輸入スル種馬、種牛、
- 第八條 左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ一年以内ニ再ヒ輸出スルモノニハ輸入稅ヲ免ス但シ輸入ノ際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス
- 一 加工ノ爲輸入スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ

二 輸入貨物ノ容器ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ

三 修繕ノ爲輸入スル物品

四 學術研究ノ爲輸入スル物品

五 試験品トシテ輸入スルモノ

六 注文取集ノ爲輸入スル見本品

七 演劇其ノ他興行用ノ爲輸入スル物品

第九條 輸入原料品ヲ用キ命令ヲ以テ指定シタル物品ヲ製造シ之ヲ外國へ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

輸入原料品ヲ用キ命令ヲ以テ指定シタル肥料ヲ製造シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

詐偽又ハ不正ノ行爲ヲ以テ前二項ノ拂戻金ヲ得又ハ得ムトシタル者ハ關稅法第七十五條ノ例ニ依リ處分ス

第十條 輸入製品ニシテ内國ニ於テ製造スル船舶ニ備付ケ又ハ取付ケ輸入ノ日ヨリ二年以内ニ該船舶ト共ニ輸出スルモノハ輸入税ヲ免ス但シ輸入ノ際税金ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス

第十一條 左ニ掲クル物品ハ輸入ヲ禁ス

一 阿片及阿片吸煙具他シテ政府ノ輸入スルモノヲ除ク

二 偽造、變造又ハ模造ノ貨幣、紙幣、銀行券及有價證券

三 公安又ハ風俗ヲ害スヘキ書籍、圖畫、彫刻物其ノ他ノ物品

關稅法ニ規定スル外國貨物運送手續

明治四十四年六月四日 達 四九七號 達 一一二一六號

改 四十四年 四十五年 大正元年 三年
正 ○達五六一號 達第六四〇號 達第一一二號 達第一二九號

關稅法ニ規定スル外國貨物(大小荷物)ノ運送手續左ノ通り定ム

第一條 外國貨物ノ陸路運送ノ取扱ヲ爲スヘキ驛(荷扱所、荷客扱店ヲ含ム、以下之ニ倣フ)左ノ通りトス

東京、汐留、横濱、龜崎、半田、武豊、名古屋、名古屋港、敦賀、金ヶ崎、矢田新、新潟、四日市、湊町、大阪、櫻島、宮津、神戸、小野濱、和田岬、糸崎、下關、門司、西唐津、長崎、青森、函館、室蘭、中央小樽

第二條 貨物ハ貨物運送狀ト共ニ運送免狀(若ハ輸移出免狀ニシテ運送免狀ヲ兼ヌルモノ、以下之ニ倣フ)ヲ提出セシメ税關ノ免許濟ナルコトヲ確認シタル上之ヲ受託スヘシ

貨物運送狀記事欄ニハ運送免狀ノ番號ヲ記入セシムヘシ

關稅法ニ規定スル外國貨物運送手續

第三條 發驛(釜山並他線)ヨリ連絡ノモノハ連絡地點ノ取扱驛所以下之ニ倣フハ運送目録二通ヲ作成シ貨物發送前ニ稅關ニ提出(輸移出特別貨物ノ場合ハ運送狀ト共ニ)スヘシ但シ輸移出貨物ノ場合ノ外ハ別ニ運送目録ノ謄本一通ヲ作成シ貨物ト共ニ著驛ニ送付スヘシ
前項ニ依リ作成スル運送目録及其謄本ニハ欄外餘白ニ貨物通知書又ハ小荷物切符ノ番號ヲ記入スヘシ

輸移出貨物ノ場合ハ第一項ニ依リ稅關ニ提出セシ運送目録ノ内一通(特別貨物ノ場合ハ運送免狀共)ハ發驛ニ於テ稅關ヨリ交付ヲ受ケ左ノ區別ニ依リ處理スヘシ

イ、特別貨物 運送目録及運送免狀ハ貨物ト共ニ著驛(釜山並他線)ニ連絡スルモノハ連絡地點ノ取扱驛所以下之ニ倣フニ送付スヘシ

ロ、普通貨物 運送目録ハ貨物ト共ニ著驛ニ送付スヘシ

輸移出特別貨物以外ノ運送免狀ハ貨物發送ノ上提出者ニ返付スヘシ

第四條 貨物ノ受託、藏置(置物)、積卸及引渡ノ場合ハ豫メ又ハ隨時關係稅關ト打合せ之ヲ定ムヘシ
第五條 貨物通知書又ハ小荷物切符ニハ其記事欄ニ外國貨物ト赤書スヘシ

第六條 一車積貨物ニ對スル車票ニハ品名欄ノ傍ニ外國貨物ト赤書シ其他ノ貨物ニハ兩面ニ外國貨物ト赤書セル荷札ヲ一個毎ニ付スヘシ

第七條 貨物ノ成ルヘク直通列車、直通列車ナキトキハ早達スヘキ列車ニテ運送スヘシ
端數貨物ハ成ルヘク一車ニ取纏メ運送スヘシ

第八條 貨物カ到着シタルトキハ著驛ハ發驛ヨリ送付ノ運送目録謄本ニ基キ運送目録ヲ作成シ稅關ニ提出スヘシ但シ輸移出貨物ノ場合ハ運送目録ノ作成ヲ爲サス左ノ區別ニ依リ處理スヘシ
イ、特別貨物 發驛ヨリ送付ノ運送目録及運送免狀ヲ稅關ニ提出シ運送免狀ニ到着濟ノ裏書ヲ受ケ之ヲ發驛ニ返付シ發驛ハ稅關ニ提出シタル上之ヲ荷送人ニ返付スヘシ

ロ、普通貨物 發驛ヨリ送付ノ運送目録ヲ稅關ニ提出スヘシ

第九條 運送目録ノ作成、提出其他稅關ニ對スル手續ハ驛、荷扱所、荷客扱店ニテハ夫々驛長、主任、連絡地點ニテハ連絡作業擔當主任者ノ責任トス

第十條 貨物ノ引渡ハ運送目録提出後直接荷主トノ間ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條 配達ヲ爲スヘキ貨物ハ鐵道保管ノ下ニ荷主ヲシテ通關手續ヲ爲サシメ其終了ノ上之ヲ配達スヘシ但鐵道ニ於テ通關手續ノ代辨ヲ爲スモノハ此限ニ非ス

第十二條 運送申告若クハ運送免狀提出ノ手續遅延ヨリ生スル時間ニ對シテハ貨物保管料、貨車留置料ノ規定ヲ準用ス

第十三條 荷主力稅關ノ休日其他一般ノ仕役時間外ニ於テ貨物ノ托送又ハ引取ヲ希望スルトキハ荷

關稅法ニ規定スル外國貨物運送手續

主ヲシテ税關ニ對スル臨時開廳及仕役特許ノ手續ヲ爲サシメタル上其取扱ヲ爲スヘシ

第十四條 釜山並他線ヨリ連絡ノ輸移入貨物ハ前各條ニ規定スル外左ノ各號ニ依ルヘシ

一、本連絡貨物ニ對シテハ荷主ノ依頼ニ依リ連絡地點ニ於ケル運送申告及著地ニ於ケル運送免狀ノ提出手續ヲ鐵道ニテ代辨ス但シ著地ニ於ケル運送免狀ノ提出手續代辨ハ速達便扱貨物、配達付大貨物及小荷物ニ對シテノミ之ヲ爲スモノトス

二、前號ノ代辨ニ關シテハ現行通關代辨ノ手續ニ準シ取扱ヒ告知書ヲ提出セシムヘシ

告知書ハ當分ノ内現行通關取扱告知書ヲ便宜訂正使用スヘシ

三、運送申告ヲ鐵道ニテ代辨シタル場合ニ税關ヨリ交付ノ運送免狀ハ著驛ニ送付シ著驛ニテハ鐵道カ代辨ヲ爲ス場合ノ外之ヲ荷受人ニ交付スヘシ

四、鐵道カ代辨ヲ爲シタル場合ニ税關ヨリ還付ノ運送免狀ハ還付ヲ受ケタル著驛ニ保存スヘシ

附 則

第十五條 本手續ニ規定セサル事項ハ一般ノ規定ニ依ルヘシ

貨物規程全集終

大正四年四月廿七日印 刷
大正四年四月廿七日發 行

定價參拾錢
郵稅四錢

編輯兼發行者 新井和臣
東京市四谷區東信濃町二十七番地

印刷者 村田豐吉
東京市京橋區新榮町五丁目七番地

印刷所 大倉印刷所
東京市京橋區新榮町五丁目七番地

發行所 鐵道講習會
東京市四谷區東信濃町二十七番地

電話番町四五二〇番
振替口座東京參四〇壹番

明治四十四年七月創刊

鐵道講習錄

業務科 ■ ■ 技術科

各科共會費一箇月分各金拾五錢

內容見本申込次第送附す

▲大貨物運賃早見表

第六版

本表は大正元年十月改正實施されたる鐵道大貨物運賃を最も簡便に算出すべく考案せしものにして如何に當面の執務者に歡迎されしかば六版を重ねたる事實之を證明して餘りあらん

- 一、用紙一等模造紙、印刷鮮明
- 二、様式は折本仕立、製本堅牢
- 三、定價一部金貳拾五錢郵税金三錢

上記第六版も既に品切となりしに
より目下製作中なり遠からず版を
新にして世上の需に應ずべし

▲鐵道講習會發行(大正三年十二月十日現在)

▲形狀は鐵道院發行の分に同じ ▲本文紙數百廿八頁

▲定價金拾五錢(郵稅) 一口五册以上 特價金拾錢(郵稅) の注文は一部 の割

い ろ は 別 全 國 鐵 道 驛 名 鑑

▲掲載の範圍 内地は勿論朝鮮、臺灣、滿洲
樺太に於ける普通鐵道と輕便鐵道との驛
名約三千を網羅せり

▲索引方法 多數の驛を見出すに簡便なる
方法を考へ電話帳の索引法を用ひたり

▲鐵道線路圖 石版三度刷の精緻圖を添へ
たり

▲停車場には旅客、貨物、臨時等區別あり、こ
れには一々符號を附して其特種なることを
表せり

▲何線は何地より何地に至るやを知らしむる
ため官公設各鐵道の線名區間を明記せり

▲異字同音、同字異音、難讀驛名表を添付せり

